

論理学/坪井九馬三(講義) ; 畔上啓策(編輯)
(英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級))

このPDF ファイルは、英吉利法律講義録(1886(明治 19)年度 第 1 年級)(原裝本デジタル・データ)から、論理学の部分を抽出して編集したものである。

2015 年 7 月 中央大学大学史資料課

論理學

文學士 坪井九馬三 講義
校 友 畔上啓 策 編輯

續釋法

第一篇 總論

第一章 論理學原義

大凡事柄ノ何タルヲ問ハス宇宙間ニ顯ハル、者ハ皆規則ヲ有スル者
ナリ勿論此ノ規則ニハ判カリ難キモアリ判カリ易キモアリ詳ナルモ
アリ詳ナラサルモアリテ其確實ノ程度ニハ種々無量ナレトモ何レト
モ規則ノ痕跡位ハ判カル者ナリ斯クノ如ク痕跡ノミ位判カリ居ル者
ハ吾輩ノ研究未タ行届カスシテ其規則ヲ未タ審ニセサルコト、知ル
ヘシ人間ノ智惠ノ如キハ此最モ詳ナラサル部類ニ屬スル者ニシテ已

二佛經ニモ智惠ノ働キヲ妙不可思議ト云ヘリ然レトモ心理學ヨリ之
ヲ推セハ智惠ノ働キニモ規則ナキコト能ハサルナリ蓋シ案スルニ人
間ノ智惠ハ地質學ノ第三期ニ人間ノ世ノ中ニ出テ來シヨリ以來漸チ
以テ積ミ累子タル者ニシテ心理學ノ言葉ヲ以テ之ヲ言ヘハ所謂遺傳
ト教育トヨリ成レル者ナリ茲ニ遺傳ト云ヘルハ親ヨリ受ケタル子ノ
天稟ノ器ニシテ普通ニ能力ト云ヘル者ナリ教育ト云ヘルハ愚案ニテ
ハ社會ノ經驗ヲ學フコト先輩ノ經驗ヲ學フコト自ラ經驗スルコト即
チ自ラ學フコトノ三者ヨリ成レル者トスコ、ニ社會ノ經驗ト云ヘル
ハ古來ヨリ傳ハレル俚諺、古書ニ載リタル格言、蒙昧ノ輩モ熟知セル普
通ノ道理等ニシテ社會ノ能力ヲ包メル空氣トモ稱スヘキモノナリ先
輩ノ經驗トハ賢人君子學者等ノ發見シテ後生ニ傳ヘラレタル道理ヲ
謂フナリ即チ父兄ノ教訓、師匠ノ口授等ニ依リテ主トシテ之ヲ知ルナ

リ此二者ヲ知ルトキハ人間一人前ニ爲ルヘケレト未タ巢ヲ出テサル
小鳥ノ如クニシテ其能ク飛フヤ否ヤハ保證シ難キナリ卽チ世間ニ立
テ男一匹ニ愧サルヤ否ハ斷言シ難シ全体父兄師匠ノ教訓ハ物事ノ全
体ニ亘レル心得ニシテ一々細事マテナモ述ヘタルコトナク又假令述
ヘントスルモ出來ヘキコトニ非ス是ヲ以テ一人前ノ人間トナリタラ
ハ必ス自ラ物事ニ當リテ試験セサルヘカラス是ニ至テ所謂以心傳心
ノ世渡リノ秘訣ヲ學ヒ得ルナリ親々ハ皆斯クノ如クニシテ其天賦ノ
能力ヲ研キ以テ其子ニ傳ヘラルヘナリ然ラハ人間ノ智惠ノ働キハ其
小キ所ニ至リテハ兎モアレ角モアレ其大体ハ必ス一定シタル者タラ
サルヲ得ス斯クノ如キヲ思想ノ法律トモ稱スヘシ又特殊ノ考ヲ鑄ル
鑄形トモ喩フヘシ今此ノ考ノ法律ノ一二ノ箇條ヲ舉レハ着物ハ着物
ナリ帽子ハ帽子ナリト云フカ如キ其一ナリ斯クノ如キ斷言ニハ異論

ナ容ル、者有ラサルヘシ以テ衆人ノ考ノ法律トシテ之ヲ守レルヲ知
 ルヘシ又「ランプ」ハ眼前ニテ牛ト異ナルコトハ明瞭ノ事ナリサレハ「ラ
 ンプ」ト牛即チ「ランプ」ニ非サル者トハ同時ニ於テ決シテ同物ニ非サル
 コトハ又考ノ法律ニシテ衆人ノ守ル所タルヲ知ルヘシ其レ然リ然ラ
 ハ人間ノ智慧ハ一定ノ規則ヲ有スル者ニシテ此規則ヲ種々様々ノ場
 合ニ適用シ種々様々ニ推考敷衍シテ終ニ論理ノ一學科ヲ爲スナリ故
 ニ余ハ論理學ヲ以テ思想ノ方式即チ辯論ノ方法ヲ事實ヨリ考定スル
 ノ學問トスコ、ニ方式ト云ヘルハ代數ノ方式ノ類ニシテ特殊ノ事柄
 ナ材料トシテ特殊ノ考ナル鑄物ヲ鑄ル鑄形ナリ既ニミルミル氏モ議論ノ
 根據ヲ鑒定スルニハ是非トモ爲サ、ルヲ得サル考ノ運ラシ様ヲ研窮
 スル學問ナリト論理學ヲ釋義セラレタルヲ以テ之ヲ知ルヘシサレハ
 論理ハ考ノ鑄形ナリ法律ナリ從テ論理學者ハ考ノ裁判官ナリ既ニ論

理學者ニシテ考ノ裁判官タラハ事ニ臨ミテ一々其事實ノ是非ヲ調フヘカラス全体裁判官ハ法律ヲ適用スル役人ナレハ自ラ事實ヲ調フル者トハ大ニ其職務ヲ異ニセリ論理學者モ斯クノ如ク若シ一々事物ヲ調フルトキハ最早論理學者ニ非ス論理學者ハ鑄物師ナリ鑄物師ハ其地金ノ何タルヲ問ハス客ノ注文通りニ之ヲ鑄ルナリ鑄物師ニシテ自ラ地金ノ類ヲ撰フ如キハ實際無キコトニシテ若シ客ノ銅像ヲ注文スルニ鐵像ヲ鑄タランニハ商賣トハ爲ラサルナリ論理學者モ此鑄物師ノ如ク論客ノ呈出スル材料ハ何事ナリトモ更ニ關セス唯論法ヲ適用スルヲ以テ其任トス然レトモ論客ノ方ニテ實際有ルヘカラサル事即チ自家乖戾ノ議論ヲ呈出シタルトキハ論理學者ハ論法ヲ適用シ難キナリ若シ強テ之ヲ適用セハ諧謔力或ハ謎言トナルト知ルヘシ諧謔ヤ謎言ハ論理ノ與カル所ニ非ス論理ハ唯正論ヲ取ルノミナリ而シテ其

Inductive Logic
Deductive Logic

Ueberweg.
Sokrates

範圍ハ百般ノ學問ニ及フコトト知ルヘシ
第二章 論理學大別

第一項 續譯論理

論理學ニ二種ノ緊要ナル大別アリ續譯論理學歸納論理學是ナリ續譯
論理ハ原名ニテ「ヂダクシヨン」ト云フ蓋シ引出スノ義ナリ西周氏ハ之
ヲ譯シテ演繹法ト云ヘリ蓋シ演ヲ廣及ヒ延ノ義ニ用キラレシナリ繹
ハ抽絲ノ義ニ取ラレシナリ然レトモ演ハ元來名詞ニシテ長流ノ義ナ
リ是ヲ以テ余ハ誤解ヲ生センコトヲ恐レ改テ續字ヲ用キタリ蓋シ續
ハ引ナリ長ナリ衍ナリ悉ク働詞ニシテ誤解スルノ恐ナケレハナリ續
繹論理ハ又方式論理トモ稱ス案スルニ續繹論理ハ思想ノ法律即チ思
想ノ方式ヲ研究スルカ故ナリ該法ヲ稱道セシハユールベッエツグ氏ニ依
レハ希臘ノソクラテースヲ以テ始トス然レトモ先生ハ主トシテ道ヲ

Plato
Aristoteles

歸納論理

講セラレ文章論理ヲ講セラレサリシヲ以テ論理ノ基礎ヲ置カレシ者トハ稱スヘカラス先生ノ門人ニプラト^トアリ世ニ出藍ノ才ヲ以テ稱セラル氏ハ語辭ノ種類ヲ論辯シテ初メテ論理ノ基礎ヲ建テタリ其門人ニアリストテリースアリ後世氏ヲ以テ論理ノ發見者トス蓋シ氏ハ百般ノ學科ニ通シ發明スル所少シトセス而シテ論法ノ一科ニ至リテハ後世ノ最モ仰ク所ナリ論理學ハ概シテ之ヲ言ヘハアリストテリース氏ヨリ始マルト謂ハサルヘカラス是ヲ以テ續釋論理ノ一名ヲアリストテリース氏ノ論理ト稱ス續釋法ノ主トスル所ハ原則ヲ敷衍シテ種々ノ枝葉ノ細則ヲ論定スルニ在リ是レ續釋法ト稱スル所以ナリ

第二項 歸納論理

歸納論理ハ原語ニテ「インダクシヨ」ト云フ蓋シ引込ムノ義ナリ而シテ之ヲ歸納法ト譯セシハ西周氏ナリトス歸納ノ法タルヤ其由來頗ル

Whewel
System of Logic
John Vehn

Lord Verulum, Francis Bacon
Novum Organum
Herschel

遠クシテ矢張り續釋法ノ如ク之ヲアリストテリーズ氏ニ歸セサルヘ
カラス然レトモ氏ハ未ダ曾テ歸納法ヲ以テ一派ノ論理學ト立ルニ至ラ
ス氏没シテヨリ以來此法ノ傳ヲ失フヲ殆ント二千年再之ヲ稱道シタ
ルハ英國ノロード、エルーラム即チ司法大臣フランシス、ベーコン氏ナ
リトス氏ハ種々ノ著作ノ中ニ羅甸文ヲ以テ歸納論法ヲ稱道シ其書ヲ
名ケテ新機械ト云ヘリ蓋シ新論法ノ意義ナルヘシ氏没シテヨリ以來
其傳ヲ失フヲ又二百年ニシテヘルシエル、ヒューエル、氏等アリテ此法
ヲ研究シタリト雖モ未タ此法ヲシテ盛ナラシムルニ至ラス其後有名
ノジヨン、スチユアー、ミル氏アリテ畢世ノ苦心ヲ以テシステム、オズ、ロ
ジック」ヲ著シベーコン氏ノ置カレタル基礎ニヨリテ初メテ歸納法ノ一
科ヲ建テラレタリ氏ノ後ジヨン、ベン氏アリテ偶合論理ヲ研究セラレ
タリト雖モ其枝葉ヲ附ケタルニ過キス是ヲ以テ如何ナル大家ト雖モ

歸納法ヲ講スルニハ皆ミル氏ノ説明法ニ則レリ余輩後進モ從テ亦同
氏ニ依テ之ヲ説明スヘシ歸納法ノ研究スル所ハ數多ノ細則ヲ練合シ
テ一箇ノ之ヲ統フル原則ヲ定ムルニ在リ是ヲ以テ歸納法ト稱ス

第三項 續釋法歸納法相關

已ニ述ヘタル如ク論理ハ思想ノ法律ニシテ衆人俱ニ承認スル所ノ思
想ノ原則ヲ敷衍シテ成レル者タルヲ以テ如何ナル論法ナリトモ皆論
理學ノ支配ヲ受ケサルヲ得サルハ明瞭ノ事ナリトス已ニ述ヘタル如
ク論理學ニハ續釋歸納ノ大別アリト雖モ其基ク所ハ同一ニシテ釋續
法ハ思想ノ法律ノ全體ヨリ直ニ敷衍シ歸納法ハ其一部ヲ敷衍シテ之
ヲ實際ニ適用スヘキ様ニナシタル者ニ過キス譬ヘハ論理學ハ性法ニ
シテ續釋法ハ性法ヲ根據トシテ定メタル一般ノ法律歸納法ハ性法ノ
原理ニ依テ實際ヨリ定メタル特殊ノ法律ナリ故ニ續釋論理學者ハ恰

モ判事ノ如ク歸納論理學者ハ恰モ立法官ノ如シ判事ノ職分タルヤ判
事席ニ坐シテ原被兩告ノ申立ヲ聞キ法律ノ存スル所ニ由テ之ヲ裁判
スルニ過キス續釋論理學者モ之ト等シク衆人ノ提出スル所ノ事實ヲ
篤ト考ヘ論理ノ存スル所ニ由テ之ヲ判決スル者ナリ決シテ自ラ其席
ヲ下リテ探偵吏然トシテ隱微ノ事實ヲ摘發シテ由テ以テ其判決ヲ左
右スヘカヲサルハ明ナリ又假設實際之ヲ爲サントスルモ論法ノ與カ
ル所ハ人智ノ及フ限ノ百般ノ學科ニ在ルヲ以テ造物主ニ非サル以上
ハ之ヲ爲ントスルモ得テ爲スヘキコトニ非ス故ニ續釋論理學者ハ衆人
ノ提出スル事實ノミヲ以テ満足セサルヲ得ス然リト雖モ歸納論理學者
ニ至テハ然ラス歸納論理ハ特殊ノ原則ヲ研究スル者タルヲ以テ其勢
事實ヲ調査シ實地ノ情況ヨリシテ特殊ノ原則ヲ考ヘ出サ、ルヘカラ
ス然ラハ歸納論理學者ハ純然タル思想ノ立法官ニシテ能ク其立法ノ

根據ヲ立テンニハ能ク實際ノ事實ヲ調査シテ原則ヲ定メ思想ノ裁判官ヲシテ之ヲ適用セシムル時ニ臨ミテ困却セシムル所アルヘカラス是ヲ以テ續釋論理ト歸納論理トハ元ト同一ノ思想ノ性法ニ從フ者タリト雖モ之ヲ用キル際ニ至リテ差別アルヲ免レス案スルニ續釋論理ハ平生ノ事物ヲ處辦スル時ニ於テ專ラ之ヲ用キルヘキモノニシテ歸納論理ハ事物ノ原理ヲ研究スル際ニ臨ミテ之ヲ用キル者タリ語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ歸納法ハ才ヲ養成スルノ要具ニシテ續釋法ハ才ヲ擢揮スルノ利器タリ何レニシテモ此兩法トモ人間缺クヘカラサルノ論法ニシテ其一ヲ缺キタルトキハ議論ヲ整理スル能ハサルナリ世ニ此兩法ノ關係ヲ知ラスシテ明リニ一方ニ偏スル論者アリト雖モ此等ノ輩ハ論法ヲ知ラサル者トシテ度外ニ置テ可ナリ又案スルニ世ニ原則ヲ製スル法ナレハトテ先ツ歸納法ヲ研究シ後續釋法ニ及フ者アリ此ノ如

論理至用

キハ一應尤ノ如ク見ユト雖モ熟々此兩法ノ由テ出ツル所ヲ案スルニ
 續釋法ハ思想ノ法律ヲ直ニ一般ニ敷衍シタル者タルヲ以テ假設歸納
 法ト雖モ續釋法ノ論法ニ由テ之ヲ建テサルヘカラス例之ハ續釋法ハ
 主ニシテ歸納法ハ從タリ此理ヲ以テ余ハ先ツ續釋法ヲ研究シ後歸納
 法ニ及フ者ナリ余ノ論理學講義ニ於テ歸納法ノ爲ニ特ニ總論ヲ設ク
 ト雖モ續釋法ノ爲ニ之ヲ設ケサルハ此理ニ基ケリ諸氏論理學總論ヲ
 以テ續釋論理總論ト見做シテ可ナリ

第二章 論理主用

已ニ述ヘタル如ク論理學ハ其續釋ト歸納トヲ論セス皆思想ノ性法ニ
 基ク者タルヲ以テ已ニ具ハレル者ヲ整フルノミヲ以テ其任トスル者
 ナリ故ニ海ノ東西ヲ論セス時ノ古今ヲ問ハス論法ナキ國ハアラサル
 ナリ唯其缺點ノ多少ニ於テ差別アルニ過キス案スルニ希獵論理ハ缺

點最モ少ク印度論理ハ之ニ次キ支那論理ハ最後ニ在ルヘシ本邦ノ如キハ支那論理ヲ學ヒタル者ナルヲ以テ毫モ論理ナシト云フモ誣言ニ非サルヘシ而シテ古今東西トモ非常ノ見識家ノ述フル所ハ自然論法ニ協ヒテ今日ヨリ之ヲ非難セントスルモ得ヘカラサル者アリサレハ此ノ如キ人ニ對シテハ論理學ハ實ニ無用ノ學問ト云フヘシ思フニ論理學ノ議論ニ於ケルハ猶ホ算盤ノ算術ニ於ケルカ如シ唯其益ヲ爲ス所以ハ議論ヲシテ成ルヘキタケ其誤ヲ少ナカラシメ之ヲ容易クセシムルニ在リ然リト雖モ非常ノ見識家ハ何レノ世ノ中ニテモ得難キモノナリ余輩凡人ノ如キハ刻苦シテ論理ヲ學フト雖モ尙ホ其議論ニ過アルヲ免カレス先哲豫メ之ヲ慮リテ論法ヲ制定シテ之ヲ後世ニ殘サレタリ然リト雖モ過ノ原因議論ノ種類ハ千狀万態ナルヲ以テ先哲ト雖モ之ヲ能ク網羅スルコト能ハス猶ホ習慣法律アリ成典ヲ編製シテ

猶ホ遺漏アルカ如シ余輩今日論法ニ欲點アリトテ之ヲ喋々スルハ先哲ノ罪人ト謂ハサルヲ得ス現ニ支那論法ノ中ニハ希臘論法ニハ適法セサルモノ最モ多カリ西洋論法ト雖モ悉ク適法ストハ謂フヘカラス况ンヤ本邦ノ論法オヤサレハ今希臘論理ヲ講スルニ當テ其行届カサル所アリトモ諸氏之ヲ恕シテ可ナラン

第二篇 命題

第一章 命題類別

第一項 句類總論

前數回ノ講義ニ於テ論理學ノ總論ハ終リタレハ是ヨリ論理學ノ本論ニ遷ルヘシ偕テ諸先輩ノ說明法ニ由レハ先ツ語辭篇ヨリ始メ而シテ後ニ命題篇ニ移ル筈ナリ然レトモ語辭ノ無形ナルヤ有形ナルヤ固有ナルヤ普通ナルヤ明瞭ナルヤ曖昧ナルヤ等ノ事ハ余ノ喋々ヲ俟タス

命題

命題類別

句類總論

シテ大畧諸氏ノ承知セラル、所ナリ故ニ余ハ語辭ノ爲メニ贅辯ヲ費
スヲ好マサレハ直ニ飛テ命題篇ニ移ルヘシ
文法ヲ案スルニ句ニハ種々ノ類アリテ漠然思想ヲ顯ス者アリ疑ヲ質
ス者アリ希フ者アリ感シ嘆スル者アリ敬ヒ崇ムル者アリ實ニ數多ノ
類アリト謂フヘシ然ルニ論理學ハ確實ノ事實ヲ述ヘタル思想ヲ求ム
ルコトナレハ第一ニ擧ケタル漠然ト思想ヲ顯ス句ヲ採用スルナリ今
此類ノ句ヲ直顯句ト稱スヘシ此直顯句ニ三種ノ別アリ第一、句ノ意義
單純ニシテ復之ヲ分析セントスルヲ得ヘカラサル者アリ例之ハ帽子
ハ黒シ手巾ハ白シ等ノ句此類ニ屬スヘシ今之ヲ單句ト稱スヘシ第二、
數多ノ單句ヲ鍊合シテ宛モ單句ノ如ク述ヘタル者アリ例之ハ唯人間
ノミ能ク笑フ時ハ得難ク失ヒ易シ貴族ハ公ナルカ侯ナルカ伯ナルカ
子ナルカ男ナルカナリ等ノ句此類ナリ唯人間ノミ能ク笑フトハ人間

Disjunctive
Comp. Indic.
Sentence

Conjunctive Compound
Indicative Sentence

ハ能ク笑フ、笑フ者ハ人間ナリトノ義ナリ故ニ之ヲ二句トナスヲ得ヘシ時ハ得難ク失ヒ易シトハ時ハ得難シ、時ハ失ヒ易シトノ義ナリ故ニ又之ヲ二句トナスコトヲ得ヘシ此類ノ句ヲは聯續體ノ複句ト稱スヘシ次ニ貴族ハ云々ノ句ハ貴族ハ公ナリ貴族ハ侯ナリ云々ノ五句ヨリ成レトモ此五句ノ意義ハ前二例ノ如ク都合ヨリ纏リ合ハサルナリ蓋シ公ナル者ハ侯タラス公、侯タル者ハ伯タラス公、侯、伯タル者ハ子タラス公、侯、伯、子タル者ハ男タラサルヲ以テ五句ノ意義各別々ニシテ鍊合セ難キ者ト知ルヘシ斯ノ如キヲは隔絶體ノ複句ト稱スヘシサレハ複句ニハ二種アリト知ルヘシ第三、接續詞ヲ以テ二箇ノ單句ヲ聯絡シテ一句ノ如ク爲シタル者アリ例之ハランブモ既ニツキタレハ夕暮ニ近ツキタリト覺エタリ白墨モ盡キカ、リタレハ餘程講義ヲ爲シタリト知ル等ノ句此類ナリト心得ヘシ今此類ノ句ヲは稜句ト稱スヘシ稜句ハ甚タ

複句ニ似タリト雖モ之ト稍、其姿ヲ異ニセリラン、プモ既ニツキタレハ
夕暮ニ近ツキタリト覺エタリトアルハ「ラン」プモ既ニツキタリ」ト云フ
句ト「夕暮ニ近ツキタリト覺ユ」ト云フ句トノ二者ヨリ成リ此二句ヲ聯
絡スル者ハ「アレハ」ノ接續詞ナリ而シテ「夕暮ニ近ツキタリト覺ユ」トノ
句ハ此糺句ノ本意ニシテ「ラン」プモ既ニツキタリ」トノ句ハ此本意ヲ協
ハシムル事情ナリサレハ糺句ノ本意ト事情トハ主從ノ關係アリト見
做スヘキナリ

以上説明スル所ノ單句、複句、糺句ハ皆論理學ニ於テ要アル句ナリ單句
ハ所謂無限命題ノ本體ナリ勿論複句、糺句ナリトテモ無限命題ト見做
スヘキ場合往々ナキニ非スト雖モ斯ノ如キハ寧ロ變則ニシテ決シテ
正則トハ爲スヘカラス複句ハ其二種トモ皆雜糺命題ヲナシ糺句ハ顯
限命題ヲナス而シテ隔絶體ノ複句ハ所謂駢顯命題ヲ成ス者ナリ今此

ε Categorical Proposition

ε Singular, „

υ Indefinite „

κ Conditional „

ε Complex „

別命題ノ類

句ト命題トノ關係ヲ圖ニテ示セハ左ノ如クナルヘシ

單句……………無限命題 (Categorical Proposition)

句
複句……………雜糅命題 (Complex Proposition)

聯續體

隔絕體……………駢顯命題 (Disjunctive Proposition)

糅句……………顯限命題 (Hypothetical Proposition)

第二項 命題ノ類別

命題ニハ其類多シ今之ヲ五類ニ區別ス曰無限命題曰單義命題曰不定義命題曰有限命題曰雜糅命題是ナリ

茲ニ無限命題ト云フハ別ニ制限ヲ加ヘス漠トシテ陳ヘタルコトヲ云ヒ單義命題トハ其陳ヘタルコトカ一ヶ條ニ限レルモノヲ云ヒ不定義命題トハ制限ノ詳ナラサルヲ云ヒ有限命題トハ其制限ノ明カナルコ

トニシテ雜糅命題トハ數多ノ事柄カ集リ居ルモノヲ云フナリ以下之
ヲ畧論スヘシ

凡テ命題ニハ量質^{をわ}ノ二義アリ之ヲ區別セサル可カラス之ヲ辨別スル
爲メニ甲^ハ乙^{ナリトアル}命題ヲ探リテ之ヲ研窮スヘシ
此命題ニ於テ甲^{トハ}發題者ノ取り出シテ述フル所アラントスル思想
ヲ代表スルモノナリ而シテ乙^ハ此^甲ヲ明悉ニシ明瞭ニセシ爲メノ道
具ト成ル甲^{ト異ナル}思想ヲ代表スルナリ抑此所ニ陳ヘシ乙^{ナルコト}
ハ甲^{ノ全部ニ}對シテ陳ヘシカ將タ甲^{ノ一部分ニ}對シテ陳ヘタルモノ
ナルカ之レヲ窮知セサル可カラス語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ甲^{ノ全部ニ}
對シテ云ハントスルカ將又其一部分ノミニ對シテ云フ所アラントス
ルカノ旨ヲ熟知セサル可カラス例之ハ人間ハ必ス食ハサル可カラス
ト云ハ、其意ハ人間一般ニ對シテ述ヘタルモノタルコト疑フ可カラ

ア Affirmative
ナ Negative

カ Universal (Bain)
ク Particular (Bain)

ス又サル人間ハ盲ナリト云ハ、是レ人間ノ一部分ニ對シテ述ヘタル
コト明ナリ

此_カ甲_ナト乙_トノ關係ヲ量ト云フナリ其_カ甲_ト一般ニ對シテ述ヘタルトキハ
周義ニシテ其_カ甲_トノ全部ニ對シテ述ヘサルトキハ不_カ周義トス周義不周
義ト云フ名ノ字義ハ方向ヲ示ス辭ニシテ別ニ意義ナシ周ハ思想ノ周
ク及フ義ナリ蓋自撰ノ名稱ニシテ原語ヲ譯セシモノニ非ス
次ニ質ノ何タルコトヲ講述センニ命題ニ由リテハ是ハ然リト自ラ主
張スルコトアリ又然ラスト否ムコトアリ其然リト主張セル場合ヲ正_カ
定ト稱シ否ム場合ヲ否定_レト稱ス此正定否定ノ語ハ印度論理語ニアレ
トモ其義高尙ニシテ了解シ難シ依テ今之ヲ用キス此承認シ或ハ否拒
スルヲ質ト云フナリ講義ニ於テ往々正否ト云フコトアルヘシ即チ正
定否定ノ畧語ニシテ質ノコトナリト承知セラル可シ

既ニ述フル如ク量ニハ全体ヲ取りテ云フモノト又一部ニ附テ云フモノトアリ其中ニモ唯一箇ニ限リテ云フコトアリ例之ハ「東京ハ日本ノ都ナリ」ト云フ如キ日本ノ都ハ多ケレトモ其人ノ云ハントスルモノハ唯東京ノミナリ又「徳川秀忠ハ家康ノ子ナリ」ト云フ等皆一箇ニ限リテ云フコトナルヲ以テ之ヲ單義命題ト云フ左レハ其人ノ云ハントスルコトハ既ニ充分云ヒ盡シタルモノナリ而シテ周義命題ハ其中ニ在ル事物ハ一箇ナルモ百箇ナルモ皆同一様ニ審ニシ明ニスルナレハ單義命題ハ全ク周義ノ一類ナリ故ニ余ハ別ニ其題目ヲ置テ講セサルナリ」又不定義命題トハ何事カ云ハント欲スルニハ相違ナケレトモ其言ハントスル事ハ全部ニ及フモノナリヤ將タ一部分ノミニ限ルモノナリヤ判然セサルモノヲ云フ「そこら位の事ならん」ト云フカ如キ是ナリ即チ何事歟ハ判然セサレト之ヲ前後ノ關係ニ求ムレハ知ルヲ得ヘキ事

物ニ對シテ述ヘタルモノナリ唯命題ニテ「そこら」（註ト云ヒ）「ならん」ト云ヒテ量ノ判然セサルノミナリトス按スルニ論理學ニハ既ニ不周義命題ノ設アリテ量ノ判然セサルモノヲ編入スルコトナレハ不定義命題ハ宜シク不周義中ニ操リ込ムヘシ依テ余ハ別ニ此題目ヲ立テ、論セス

無限命題ニ四種アリ元來正定周義命題トハ周密ニ言ヒ盡セルコトニシテ否定周義命題トハ打消ヲ全クスルモノナリ又全部ニ及ホサスシテ云フタルトキハ之ヲ正定不周義命題トシ全部ニ及ホサスシテ打消タルトキハ之ヲ否定不周義命題トス之ヲ一般ノ符牒ニ「ア」「エ」「イ」「オ」ト稱ス

- (A) 正定周義
- (E) 否定周義

*Hypothetical Proposition
Disjunctive

(I) 正定不周義

(イ)

(O) 否定不周義

(オ)

次ニ制限ノ附キタル命題ヲ述ヘンニ其類多ケレトモ余ハ先ツ之ヲ左ノ二種ニ區別ス

第一 顯限命題

第二 駢顯命題

第一 顯限命題トハ制限ヲ顯ハスモノナルヲ以テ何事タリトモ制限

アレハ則チ可ナリ前述ノ糅句ハ皆是ナリ之レニモ〔ア〕〔エ〕〔イ〕〔オ〕ノ四種アリ

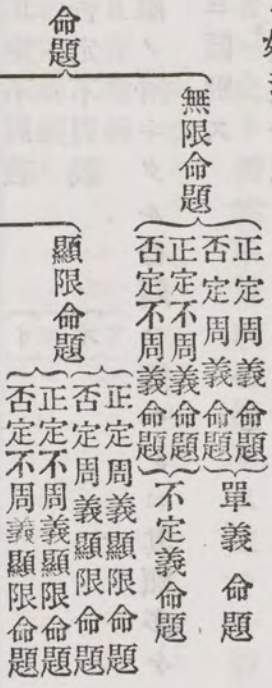
第二 駢顯命題トハ二箇以上ノコトヲ排列シテ顯ハスモノナリ之ヲ

二箇ニ限ルトスルコト普通ナレトモ法律文等ニハ數多ノ事項ヲ排列スルモノアリ一言ニシテ述フレハ是レカ其レカト云フ如キ互ヒ違ヒ

ニ其中ノ一ヲ取りテ二箇ハ同時ニ取ラサルモノヲ云フ而シテ甲若クハ乙若クハ丙ト云フ如キハ皆是レヲ俱ニ立ツヲ得ヘキモノトナスヘキヤ否ヤニ關シテハ議論ノアルコトナレトモ兎ニ角之レヲ駢顯命題トナス

雜糅命題トハ糅語ヲ有シ若クハ糅語ヨリ成レル命題ニ下セル稱ニシテ雜糅ノ考ノ澤山入リアルモノヲ云フ

以上講述スル所ニテ命題類別ノコトハ全ク終リタリ之ヲ表ニテ述フレハ左ノ如シ



有限命題

駢顯命題

雜糅命題

命題辯義

語辭辯義

第二章 命題辯義

第一項 語辭辯義

上來述ヘシ如ク論理學ニテハ意味單純ニシテ之ヲ分割スルコトヲ得サルモノヲ取リテ命題ノ本体トスルナリ今之ヲ式ニテ書スルトキハ左ノ如クナル可シ

凡テノ[甲][ハ][乙]ナリ

右ニ記シタル[甲][ト][乙][ト]ハ共ニ一ノ符號ナレハ何事何物ヲ之ニ嵌込ムモ可ナリ此式中ニテ最モ肝要ナル者ハ[甲][ト][乙][ト]ニシテ甲ヲ以テ主人格トシ乙ヲ以テ主人ナル甲ヲ審ニスル爲メ言ハサルヲ得サル[甲]ノ定

義ナリトス是ヲ以テ乙チ賓位格トス語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ甲ハ乙ノ
 爲メニ審ニシ明ニセラル、モノニシテ乙ハ甲チ審ニシ明ニスルモノ
 ナリ既ニ甲ハ主人格ナレハ是レ則チ主位ヲ占ムル意義ナリ乙ハ甲ニ
 客對スレハ賓位ヲ占ムル意義ナリ而シテ甲乙トモ必スシモ一語ニテ
 ハ事足ラス何十言モ何百言モ重ネサルヲ得サルコトアルヘシ何レニ
 テモ纏リタル考タラサル可カラス余カ之ヲ語ト云ヒテ辭ト云ハサル
 モノハ語數ニ關係ナキ故ナリ
 主位ノ考ト賓位ノ考ト双方關係スルハ明カナリ而シテ總テ關係トハ
 意義ノ連絡ヲ云フコトナレハ何カ甲ト乙トチ連絡スル辭ナカルハカ
 ラス按スルニ總テ命題ニハアリノ一言アリテ之ヲ連絡スルトシテ可
 ナリ例ヘハ爰ニ甲チ今日トシ乙チ雨降ルトスルトキハ如何ナル命題
 チ得ヘキヤト考フルニ左ノ如クナルヘシ

正定周義
命題

今日ハ雨カ降ル

「今日」トハ主位ニテ「雨カ降ル」トハ「今日」ナル意義ヲ審ニシタルモノニテ
實位ナリ而シテ此場合ニハ「雨カ降ル」ト云フ中ニ「アリ」ノ一言ヲ畧シア
ルト見ルヘシ

第二項 正定周義命題

正定周義ノ命題ハ符號ニテ「ア」ノ命題ト云フ廣ク主位ノ全部ヲ承認シ
タルモノナリ蓋實位ニシテ主位ノ全体ヲ審ニセサルトキハ周義ニア
ラサルナリ正定トハ承認スルヲ言フ

此命題ノ目印ハ「大凡」「總テ」「凡テ」ノ「何等」ノ「各」「必ス」「悉ク」「皆等」ニシテ何レモ
全体ニ及ホシテ云フ語ナリ適例ハ後ニ至テ述ン楮テ總テ斯様ノ語ハ
副詞ナルモ形容詞ナルモ皆主從ニ屬ス而シテ命題カ正定ナルヤ否定
ナルヤヲ定ムルニハ接辭ニ屬スル打消ノ語アルヤ否ヤヲ見ルヘシ若

シ打消シノ語カ主位若クハ賓位ニ係ルトキハ何等ノ效モ無シト雖モ其接辭ニ係ルトキハ之カ爲メニ命題否定ト爲リテ其意義ヲ前ノ裏ニスルナリ又打消ノ接辭ニ係ルヤ否ヤヲ見定ムルハ各自ノ發明經驗ニ在リテ臨機應變ナレハ今爰ニハ纔ニ其概畧ヲ示スノミ

周義ノ意味目印肝要ノコトナレハ之ヲ説明スヘシ

〔凡ソ〕總テト云フ言ハ一所ニ述フヘシ此二言トモ副詞ニシテ主位ノ意義ニ對シ一綱ニ纏メテ云フコトニシテ提出シタル事柄ヲ一々定ムルニアラス提出シタル事柄ノ全体ヲ一纏ニシテ云フナリ

〔必ス〕ナル言ハ意義ノ性質ヲ定ムルモノニシテ其量數ニ關セス之ニ反シテ前ノ〔凡ソ〕又ハ總テハ事柄ノ量數ヲ定ムルモノナリトス例ヘハ帽子ト云フモノ、定義ヲ與ヘンニ帽子ハ概シテ織物ヲ以テ製シタル柔ニシテ能ク頭上ヲ掩フモノナリト云フヲ得可シ何トナレハ帽子ハ麥

藁ヤ羅紗ニテ作ルヲ以テ普通トシ金ヤ石ニテ作ルモノハ甚タ稀ナレ
 ハナリ今此定義ニ適スルモノヲ求ムルニ其數ハ世界中幾何アルヤ知
 ルヘカラス是レ則チ帽子ナル語ニ籠レル事物ノ量數ナリ故ニ數ヲ定
 ムルトキハ「凡ソ」都テ「テ用キルモ其性質ヲ定ムルトキハ」必ス「決シテ」等
 ナ用キテ性質ヲ定ム可キスリ「何等ノ」「各」等ハ何レモ提出シタル事柄ノ
 一々ヲ抑ヘテ云フコトニテ先ツ各自ノ意味ヲ定メ後チ微カニ全体ニ
 及ホスモノナリ

「悉ク」皆「等」ノ語ハ一々抑ヘテ意義ヲ定メ最後ニ全体ヲ括クルモノニテ
 「何等ノ」ト云フ語ヨリ意義稍廣シ
 「都テノ」ノ語ハ曖昧ナル語ナリ例之ハ「都テノ人間ハ目鼻ヲ持ツ」ト云ヘ
 ハ人間全体カ目鼻ヲ持ツト云フカ如クナルモ能ク考フレハ人々孰レ
 モ目鼻ヲ持ツト云フコトナリ又西洋ノ格言ニ「都テノ光ルモノハ黃金

ニアラスト云フモ或ル光ルモノハ黄金ニアラストノ義ナリ然ルニ日本ノ都テノ歳入ハ六千万圓ナリト云ハハ總高ヲ指シタルモノナリサレハ都テノハ二義ヲ有セリト知ルヘシ茲三アノ命題ノ適例ヲ舉ン三今日ハ雨カ降ルト云ハハアノ命題トナルコヽニハ何等ノ周義ノ目印モナケレトモ今日ハ全体ヲ指セハナリ又智者ハ水ノ如シト云フモ凡テノ智者ト云フコトナリ又打消ノ語アルトキハ能ク注意セサル可カラス例ハ凡ソ天下ノ人楠公ノ大節ヲ稱セサルハナシト云ハハ命題中三稱セスアルト云ヒ又者ナシト云フ俱ニ否定ヲ顯ハスコトナレトモ命題總体ノ意義ハ大凡ソ天下ノ人悉ク楠公ノ大節ヲ稱ストノ意義ナレハ命題ハ無論正定ナリ又賢ト不肖トヲ問ハス慾ニ溺レサルモノハ稀ナリト云ハハ則賢不肖ヲ問ハス皆慾ニ溺レサルハ無シトノ意義ナレハ總テ否定ヲ表ハス語ハ都合三個

アルモ命題ノ總体ノ意義ハ賢不肖俱ニ慾ニ溺ルトノ義ナレハ復タ正定ナルコト勿論ナリ凡テ言語文章ハ人々ノ氣質ニ依リテ變化スルモノナレハ意味ノ變化ニ注意スルヲ必要トス何レニテモ命題ノ精神ハ如何ナルヤヲ考ヘサル可カラズ決シテ字面語句ニ拘泥ス可カラズ而シテ其精神ヲ取ルニハ世間普通ノ意味通り解釋セサル可カラサルナリ日本語ニテ「何ヤ」「何ナリ」「何ニカアラン」等ノ疑ノ語アルトキハ打消ノ意ニシテ場合ニ依リ「ア」ノ命題トナルナリ

第三項 否定周義命題

否定周義命題トハ符號ニテ「エ」ノ命題ト云ヒ自分ノ承諾セサル意義ヲ顯ハスモノナリ而シテ此命題ニテ打消ス語ハ通常「ス」「ナシ」等ノ語ナリ此二者ハ能ク考ヘサル可カラズ凡テ接辭ニカ、ルトキニ限り否定周義ノ命題トナルナリ又此語ヲ用キサルモ打消トナルコトアリ即チ婉

否定周義
命題

曲ニ言ヒ廻シタルトキ是ナリ例ヘハ論語ニ「巧言令色鮮矣仁」トアル場
合ノ鮮矣ヲ絶テナシト解スルトキハ全ク「エ」ノ命題トナル
斯ノ如ク婉曲ニ「稀ナリ」トカ「少シ」トカアルトキハ能ク注意セサルヘカ
ラス謙遜シテ云フコトアレハナリ

第四項 正定不周義命題

自分ノ主位トシテ提出シタル事柄ニ對シテ賓位ニ於テ充分ニ之ヲ審
ニシアラサルトキヲ云フ而シテ「概ネ」多分ハ「多クハ」多數ノ「二三
ノ」僅ノ「等」ノ不定不周ノ意義ヲ顯ス語アリテ命題ノ主位ヲ占ムル意義
ニ屬スルトキハ其命題ハ不周義ナリト心得ヘシ而シテ論理學ニテ最
モ議論アルハ「二三」ノナル語ナリトス英語ノ「サム」ナル語ニ當ル吾人平
生ニ「二三」ト云フハ事柄ノ中ニツヲ指シ或ハニツ以上ヲ指スモノニ
シテ全体ヲ指スニアラス然ルニ論理學上ニテハ甚タ異リタル意味ニ

用キル即チ二三ノノ意味ハ少クトモ一箇以上ニテ都合ニ依リテハ事柄全体ニ及ブヤモ計リ難キコトヲ云フヲ通常トス例ヘハ日報社ニテ「サル代言士」ト云ヒタルハ少クモ一人以上ヲ指シタルナリ然シナカラ其時ノ一人ハ何人ヲ指シタルヤ知ルヘカラス場合ニヨリテハ代言士全體ヲ指シタルヤモ知ルヘカラサルナリ左レハ此場合ニ於テハ前後ノ關係ニ依リテ本人ノ料見ヲ推察スルヨリ外ナキナリ

〔多數ノ〕ト云フ語ハ論理學上ニテハ過半數ト解スヘキナリ十中八九ト云フニアラス僅ノ〔ハ〕二三ノニ少シ意味狭キモ一箇以上三箇位ノ間ヲ彷徨ス少部分トシテ解スヘシ又嫌ヒアリ〔憂アリ〕及ハス〔若カス〕之ヨリ大ナルハ莫シ〔少ナルハナシ〕等ノ比較ノ語ハ凡テ不周義ノ目印ナリトス

第五項 否定不周義命題

否定不周義命題ハ符號ニテ(オ)ノ命題ト云フ此命題ハ其名稱ヲ見テモ
 判ル如ク主位ニアル所ノ意義ハ不周義ニシテ接辭ニ打消ノカ、リタ
 ルモノヲ云フ例ヘハ「天下ノ人必シモ文學無盲ニアラス」又「書ヲ讀マサ
 ル者ハ概シテ識ナシ」ト云フ類是ナリ即チ打消ト制限ト兩方存スル者
 ナリ

否定不周義命題ハ漢文ナトニハ甚タ稀ニシテ常ノ言語文章ニ於テモ
 考ヘテ言フカ或ハ注意シテ綴ル時ニ用キルモノナリ之ヲ以テ世人ハ
 餘リ此命題ヲ活用セス其漢文ニ於テ用キル場合ハ「概シテ」トカ又「必
 シモ」トカ斷リアル時ナリ例ヘハ「人主左右不必賢」ト云フ如キ然リ斯ク
 ノ如キハ皆「オ」ノ命題ナリ「オ」ノ命題ノ目印ニテ注意ス可キハ「纔ニ」ナル
 意義ナリ此纔ニト云フ字ヲ使用スル場合ハ有ルカ無キカト云フノ意
 味ニ當ル時ナリ英語ニテ「ヒウ」ト云フ是ナリ例ヘハ「元虜十萬遭颶風脫

顯限命題

歸者纔三人ト云フ如キ多數ノ元兵ハ颶風ニ遭ヒテ脱歸セザリキトノ
 意義ナリ即チ元兵纔ニ返リシト云フ時ハ論理學上ニテハ多クノ元兵
 ハ死セリト云フコトナリ
 又匱シカラス、少ナカラス、易カラス、難カラス、何ヨリ減セス、何ヨリ讓ラ
 ス何ヨリ下ラスト云フ如キ場合ハ皆オノ命題ニシテ即チ否定不周義
 命題ナリトス

第六項 顯限命題

顯限トハ制限ノ加ヘアルモノニシテ前述ノ「ラ」ンズ「モ」附ケハ既ニ夕景
 ナリト覺ヘタリト云フ加ヘ主從ノ關係ヲ有シ提出シタル事ノ其理由
 ト共ニ現ハレ居ルモノ是ナリ此類ノ命題ニモ亦「ア」「エ」「イ」「オ」ノ四種アリ
 此區別タル舊ハナカリシカトモ近頃之ヲ定ムルニ至リタリ此顯限命
 題ニ相當スル式ヲ掲クレハ

(二) 若シ[甲]ニシテ[乙]タラハ[丙][ハ][丁]ナリ

此式ニ於テ[タ]ラハ[ト]ハ[タル]凡テノ場合ニ於テノ義ニシテ此式ノ周義タルヲ示シ[丙]ハ[丁]ナリト云フニテ其正定ナルヲ示セリ又[甲]ハ[乙]ナリトハ從ノ句ニシテ[丙]ハ[丁]ナリトハ主句ナリ即チ[甲]ハ[乙]ナリト云フハ理由ニシテ[丙]ハ[丁]ナリト云フコトヲ引キ出ス爲メニ述ルモノナリ此[甲][ハ][乙]ナリト云フヲ前項ト云ヒ[丙]ハ[丁]ナリト云フヲ後項ト云フ即チ顯限命題ノ量ハ主從ノ二句ヲ連絡スル接續詞ニヨリテ定リ又其實ハ後項ノ質ニヨリテ定マルモノニシテ後項ニシテ正定ナラハ顯限命題モ亦正定ナリトス

(二) [甲]ニシテ[乙]タラハ[丙][ハ][丁]ニ非ス

此式ニ相當スルモノハ否定周義即チ[エ]ノ命題ナリトス例ヘハ[若シ雨降ラハ道ハ好カルマシ]或ハ[北風吹カハ暖カナルマシ]ト云フ如キ常用

ノコトナリトス

(三) [甲][乙]タル二三ノ場合ニ於テ[丙][丁]ナリ

是レハ正定不周義即チ[イ]ノ命題ナリ例ヘハ[國事犯チ爲シタル者モ左ル場合ニ於テハ禁錮ニ處セラル可シ]ト云フ如キ然リ

(四) [甲][乙]タル二三ノ場合ニ於テ[丙][丁]ニ非ス

是レハ否定不周義即チ[オ]ノ命題ナリトス例ヘハ[吾輩書ヲ讀ミタリトモ左ル場合ニ於テハ讀ミタルノ效ナシ]ト云ハ、顯限ノ[オ]ノ命題ト爲ルナリ

駢顯命題

第七項 駢顯命題

駢顯命題トハ主位若クハ賓位ニ於テ二箇以上ノ相互ノモノヲ容ル、場合ナリ即チ斯クスルカ若クハ斯クセヨト云フ如キ其二者ノ一ヲ云フモノナリ例ヘハ此帽子ハ安ヒカ又高ヒカト云フ如キ是レナリ

此ノ如ク駢顯命題ハ相互ノ語ニ箇以上ヲ容ル、モノナルヲ以テ場合ニ依リテハ所謂桂馬ノ禪ニテ二者ノ中孰レカ一ハ避クヘカラサルコトアリ又法律書等ニハ隨分八箇位マテモ綱ヲ張りタルモノアリ然レトモ通常ノ談話ニハ餘リ此命題ヲ用キサルモノナリ蓋理屈ニ流ル、ノ恐アレハナリ

若シ相互ノ語ニシテ主位ト賓位トニアルトキハ駢顯命題ト云ハサルナリ斯クノ如キ場合ハ雜糅命題ナリ今駢顯命題ノ例ヲ舉レハ山陽ノ詩ノ雲耶山耶吳耶越ト云フ如キ又刑法ニ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス云々ト云フ如キ其罪ヲ數箇ニ區別シテ犯スコトヲ得皆死刑ニ處セラル、モノナリ此等共ニ駢顯ノ命題ナリトス

古說ニ據レハ駢顯ノ命題ニテハ相互ノ語兩立スルコトヲ得ストセリ

リ近頃ノ人ノ説ニハ之レニ反シテ二者相容ル、モ差支ナシトスルモ
ノアリ余輩此ニ之レヲ考フルニ差支ナシトスル方ハ通常用キル駢顯
ノコトニシテ又二者相容ル、ヲ得ストスル方ハ理ニヨリテ云フモノ
ナリ素ヨリ論理ハ通常言語文章ニ適セサルヘカラス是ヲ以テ余モ亦
新説ニ左袒ス即チ雲耶山耶吳耶越ト云フトキ若シ假ニ天草灘ヨリシ
テ支那國ヲ見渡スヲ得ルトセハ吳ノ山モ越ノ山モ見ルヘク雲ハ勿論
見ラルヘシ依リテ四者共ニ駢立シテ相容ル、ナリ又前陳ノ刑法第百
二十一條及ヒ百三十條ノ罪ノ如キ數罪同時ニ犯スコトヲ得ルノ類是
ナリ然レトモ場合ニ依リテ二者以上共ニ相容レサルコトアリ例ヘハ
狐ハ焦茶色ナルカ若クハ其他ノ色ナリト云フ如キ相並テ容ル、コト
ヲ得サルモノナリ故ニ各其場合ニ由リテ論定セサル可カラス
又按スルニ駢顯命題ニモ周義ト不周義トノ二アルコトナキニアラス

例へハ日本ノ華族ハ概シテ公ナルカ候ナルカ伯ナルカ子ナルカ男爵ナルカナリト云フ此ニ概シテ云フハ華族ナレハトテ必スシモ爵アルモノニアラス中ニハ無爵華族アルヲ以テナリ然レハ駢顯命題ニハ否定正定アルカト云フニ然ラス皆正定ナリ若シ否定トスルトキハ甲若クハ乙ハ丙ニアラストセサルヲ得ス然ルトキハ始終ヲ瓦解スルニ至ラン

第三章

命題相關

命題ノ相關トハ命題ノ相關スル様ヲ云フナリ此定義ヲ下セハ量若クハ質ノ一カ或ハ双方共ニ相違セルノミニテモ主位ト賓位トハ同一ナル二箇ノ命題ノ關係ヲ相關ト稱ス爰ニ(ア)ノ命題ヲ取り凡テノ甲ハ乙ナリト云フ此時ニ於テ其質ノミ換ユルトキハ何等ノ甲モ乙ニアラスト云フコトニ至ル因ニ云フ決シテ

「凡テノ甲ハ乙ニアラス」トハ萬々云フ可カラサルコトナリトス
 今此ニ命題ノ關係ヲ考フルニ一方甲ハ凡テ乙ナリト云ヒ一方ハ凡テ
 乙ニアラスト云フ如キハ双方共取ルニ足ラサルコトナリ例ヘハ一方
 ニテ日本人ハ悉ク盲ナリト云ヘハ一方ニ於テハ悉ク盲ニアラスト云
 フト同様ナリ此關係ヲ稱シテ反對ト云フ又一方ニテハ「エ」ヲ以テ問ヒ
 シニ「ア」ヲ以テ答ヘタル如キ同シク其効ナキモノトス之ニ反シテ量モ
 質モ變ヘテ「二三」ノ甲ハ乙ニアラスト云フトキハ「ア」ト「オ」トノ關係トナ
 ル即チ日本人ハ皆ナ盲ナリト云フトキ之ニ答フルニ「或ル日本人ハ盲
 ニアラスト」云フ如キ是ナリ
 又一方ハ「エ」ノ命題ヲ以テ何等ノ甲モ乙ニアラスト云ヒタルトキ之ニ
 答フルニ「二三」ノ甲ハ乙ナリト云ヘハ可ナリ之ヲ「エ」ト「イ」トノ關係トス
 即チ双方正シキコトナク又正シカラサルコトモナキナリ此相關ヲ乖

論理學

四十一

五九

五八

小反對ノ
關係

Subcontrary

差等ノ關
係

Subaltern

辰ト云フナリ
 又一方ニ於テハ「イ」ノ命題ヲ用キ「二三」ノ甲ハ乙ナリト云フトキ其實ノ
 ミチ變ヘテ答フルトキハ「二三」ノ甲ハ乙ニアラスト云フニ至ル然レハ
 「イ」ト「オ」トノ關係トナリ双方共ニ正シケレトモ所謂水掛論ニシテ益ナ
 シ此ヲ小反對ノ關係ト云フ
 次ニ又一方ハ「エ」ノ命題ヲ以テ日本人ハ皆ナ盲ナリト云ヒシニ一方ニ
 於テモ亦或ル日本人ハ盲ナリト云フカ如キハ其效ナキモノトス何等
 ノ甲モ乙ニアラスト云フトキ左ル甲ハ乙ニアラスト云フモ其效ナキ
 コト前ニ同シ
 之ヲ以テ一部分ハ然リト心得タリトテ全躰マテ然リト云フコトヲ得
 ス但全躰ヲ知ルトキハ必ス其一部分ヲ知ルモノトス可シ之ヲ差等ノ
 關係ト云フ

論理学/坪井九馬三(講義)；畔上啓策(編輯)

(英吉利法律講義録 (1886 (明治 19) 年度 第 1 年級))

43 ページから 60 ページの講義録(14 号)は非所蔵

命題ニ付テ一言センニ

凡テノ甲ハ乙ナリ

ト之ヲ反定スル時ハ(一)何等ノ甲モ(非乙)ニアラスト云フニ至ル之ヲ直
 轉スルトキハ(二)何等ノ(非乙)モ甲ニアラストナル之ヲ反定スルトキハ
 (三)凡テノ(非乙)ハ(非甲)ナリトナル之ヲ加限轉換セハ(四)二三ノ(非甲)ハ(非
 乙)ナリトナル之ヲ反定セハ(五)二三ノ(非甲)ハ乙ニアラスト云フニ復ル
 是レ此法ノ定義ニ協ヘル新命題ナリ即チ[ア]ヨリ[オ]ヲ得タルモノナリ
 又同様ニ[エ]ヨリ[イ]ヲ得ヘシ即チ何等ノ甲モ乙ニ非ストアルヨリ二三
 ノ(非甲)ハ乙ナリト云フヲ得此二類ヨリ外ニ得ヘキモノハナシ今適例
 チ舉テ講述スヘシ

[ア]ノ命題ヨリ推續シテ[オ]ノ命題ヲ得即チ凡テノ甲ハ乙ナリト云フ[ア]
 ノ命題ヨリシテ二三ノ(非甲)ハ乙ニ非スト云フ[オ]ノ命題ヲ得又[エ]ヨリ

Immediate inference
by added determinant

〔イ〕ヲ得ヘキナリ
 例ヘハ日本人ハ亞細亞人種ナリト云フ〔ア〕ノ命題ヨリ二三ノ日本人ニ
 アラサルモノハ亞細亞人種ニ非スト云フヲ得ヘシ今此ノ日本人ニ非
 ル者トハ之ヲ論理上ニテ云フトキハ木、白墨、犬苟モ日本人ト云フ名ヲ
 附スヘカヲサルモノハ日本人ニアラサルモノナリ此ニ凡テノ日本人
 ニアラサル者ハ亞細亞人種ニ非スト云フコトヲ得ルカ曰否ラス是レ
 二三ノ日本人ニ非ル者云々ト格別ニ記シタルナリ以テ〔ア〕ヨリ〔オ〕ヲ得
 ヘキヲ知ルヘシ之レト等シク〔エ〕ヨリ〔イ〕ヲ得ヘキナリ例ヘハ腐敗ノ魚
 ハ食フ可カラストアルヨリ新鮮ナル魚ハ食フ可シトアルヲ得ヘシト
 スル者實ニ多シ然レトモ新鮮ナリトテ元來惡キモノアリ故ニ論理上
 ニテ或ル新鮮ナル魚ハ食フ可シト云フヲ得ヘキノミ

第五項 係辭堆續

係辭推續トハ茲ニ一ノ命題アラハ其命題ニ主賓位共ニ同シ形容詞ヲ
加ヘ得ヘキモノヲ云フ例ヘハ假リニ此形容詞ヲ平假名ノ〔イ〕ニテ示セ
ハ〔凡テノ甲ハ乙ナリ〕ト云フ命題ハ〔凡テノ〔イ〕甲ハ〔イ〕乙ナリ〕トナルヘシ
是レ則チ係辭推續命題ナリ此法ハ決シテ濫用ス可カラス例ヘハ〔裏店
ハ家ナリ〕トアルニ廣大ノ形容詞ヲ附ケ〔廣大ナル裏店ハ廣大ナル家ナ
リ〕ト云フトキハ不都合ナリ何トナレハ裏店ハ九尺貳間ヲ通例トスル
モノナレハ廣大ノ家トハ大ニ異ナレハナリ故ニ此廣大ト云フ文字ヲ
削リ換フルニ汚穢ノ辭ヲ以テシ〔汚穢ナル裏店ハ汚穢ナル家ナリ〕ト云
ハ、然ル可キコトナリ元來論理學ハ人ノ與ヘタル事實ヲ審査スルモ
ノナレハ論理學者ニ於テ濫ニ形容詞ヲ附加スヘカラサルハ明カナリ
故ニ此法モ亦正當ニ論理學ノ取扱フヘキモノニ非ス唯世間ニ之ヲ爲
スモノ多キヲ以テ茲ニ一言シ置クナリ

第三篇 論式

第一章 論式説明

此三日本人ハ亞細亞人ナリ、東京人ハ日本人ナリ、故ニ東京人ハ亞細亞人ナリトアルヲ以テ論ト爲シ其組織ヲ考フルニ該論中ニハ同様ノ語多クアリテ自然ニ法則アルモノ、如シ是論理ノ法式アル所以ナリ日本人ト云フコトハ第一ト第二命題トニアリテ主賓位ノ何レカヲ占ム亞細亞人ト云フコトハ第二ト第三トニアリテ何レニテモ賓位ニアリ東京人ト云フコトハ第二ト第三トニアリテ何レニテモ主位ニアリ故ニ一議論ヲナスニハ三語ヲ要ス勿論此ニハ日本人、東京人、亞細亞人トアレトモ是ハ何ニセヨ一ノ纏リタルコトナレハ可ナリ其有形ナルト無形ナルトハ論外ナリ又此論理ヲ見ルニ第一、第二、第三命題アリ故ニ論ハ三命題三語ヲ以テ組織スルモノナリ此ニ其名稱ヲ示サン

¹³Major premise or Supmption
¹²Minor " " or Subsumption
¹⁵Conclusion
¹⁴Premises.

第一命題 提綱

第二命題 副案

第三命題 斷案

提案

第一命題ハ何等ノ場合ニアリテモ其場合ノ原則ニシテ衆人ノ條規ト
 シテ遵奉スル規則ナリトス第二ハ目前ニ見ル事柄ニシテ第三ハ結局
 即チ論斷ナリ又三語ノ中斷案ニナキモノヲ通常中間名辭ト云フ蓋シ
 範圍ノ中間ニ在ルト云フ意味ニアラス中間ニ立テ周旋スルノ義ナリ
 他言スレハ媒介ヲ爲スノ語ナリ故ニ余ハ之ヲ稱シテ媒語ト云フ次ニ
 第一命題ノ中ニアリテ媒語ニアラサルモノ即チ斷案ノ賓位ニアル語
 チち統語ト云フ次ニ第二ノ命題ニアリテ第三ニ現ハル、モノ即チ斷案
 ノ主位ニナリ居ルモノヲり從語ト稱ス今此議論ヲ圖ニテ示サハ左ノ如
 クナルヘシ

Middle term
 Major term
 Minor term

第一 日本人ハ亞細亞人ナリ [ア]

第二 東京人ハ日本人ナリ [ア]

第三 故ニ東京人ハ亞細亞人ナリ [ア]

第一

圖一



第二

圖二



第三

圖三



斯ノ如クナルヲ以テ第三ニ於テノ語ノ正シキコト知ル可キナリ
 此場合ニ於テ亞細亞人ト云フ統語ハ廣クシテ從語ハ狹シ媒語ハ其中
 間ニ立テリ今又少シ議論ヲ換ヘテ説明センニ

第一 日本人ハ亞細亞人ナリ [ア]

第二 或ル東京ノ住民ハ亞細亞人ニ非ス [オ]

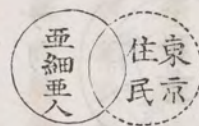
第三 故ニ或ル東京ノ住民ハ日本人ニ非ス [オ]

此議論ハ「ア」「オ」ノ命題ヨリ成立ツモノナリ左ニ之ヲ圖セシ

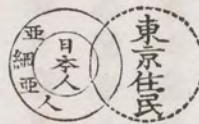
第一圖



第二圖



第三圖



此ヲ以テ第三ノ命題ヲ得此場合ニハ東京ノ住民ナルモノハ如何ニ其
 範圍廣大ナルモ差支ナシ即チ從語ハ最大ナルモ可ナリ而シテ亞細亞
 人ハ之ニ次クヘク日本人ナルモノハ最小ナルヘシ

又別議論ヲ與ヘンニ(一)或ル日本人ハ洋書ヲ讀マス(オ)(二)日本人ハ亞細
 亞人ナリ(ア)(三)故ニ或ル亞細亞人ハ洋書ヲ讀マスト此論ハ確實ニシテ
 一點ノ攻撃ヲモ容ル、所ナキナリ

右ノ如ク辭ノ位置ハ如何ニ變更スルモ差支ナク決シテ其本一定シテ
 動カス可カラサルモノニ非サルナリ今此論ヲ圖セハ

故ニ第三ニ於テ或ル亞細亞人種ハ洋書ヲ讀マス即チ亞細亞人ト洋書
 讀トハ大ニシテ日本人ハ小ナリ而シテ亞細亞人ト洋書讀トハ範圍ノ
 廣狹相定マラサルモ差問ナシ唯日本人ニシテ小ナレハ足レナリトス

第一 賢者ハ少シ
 第二 少キモノハ怪物ナリ
 第三 故ニ怪物ハ賢者ナリ

此關係ヲ圖スレハ左ノ如シ

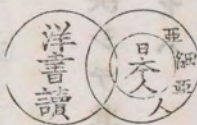
第一圖



第二圖



第三圖



Whateley.

此ニ由リテ之ヲ觀レハ怪物ハ賢者ナリトス固ヨリ適當ノ語ニアラス
 然ルニ此怪物ト云フ上ニ或ルト云フ辭ヲ附シ或怪物ハ賢者ナリト云
 ヘハ圖ニ照スモ毫モ差支ナキナリ必竟此場合ニ於テハ第三ハ不周義
 ナラサル可カラス

論式規則ヲ論ス

論式規則ハ左マテ古キモノニアラス英國ホッエートレイ氏ノ定言ニヨ
 レハ此規則ハ六ヶ條ヨリ成立セリ是ノミニテハ不便ナリトテ後世ノ
 人考へ出シテニヶ條ヲ加ヘ都合八ヶ條トナシ爾來之ヲ遵用セリ近頃
 ニ至リテ更ニ一ヶ條ヲ加ヘタル者アレトモ其ハ區別スル程ノモノニ
 アラス唯前ノ八ヶ條ヨリ更ニ一ヶ條ヲ敷衍シタルモノニ止マル而シ
 テ論理學者ハ右ノ規則ハ悉ク之ヲ暗誦シ居ラサル可カラス左ニ其箇
 條ヲ舉示セン

第一條 大凡論式ニハ三語アル可ク又三語ニ限ルヘシ

此場合ニ於テハ語ナルコトヲ了知セサル可カラズ毎度云フカ如ク語ハ文法上ノ意味ニアラスシテ一纏ニ爲リタル者ヲ示スモノナリ而シテ此考タル有形無形ヲ問ハス又之ヲ示ス字面或ハ言辭ニ拘泥ス可カラズ唯同意ナレハ之ヲ同語ナリトシ其述ル所異ナルモ意味相同シケレハ之ヲ同語トナス然レトモ同語ナルノ故ヲ以テ意味相同シキモノト思惟ス可カラス

此三語アル可ク又三語ニ限ル可シト云フ事柄ハ一樣見易キモノ、如クナレトモ其實決シテ然ラス今此場合ノ例ヲ示セハ

- 第一 來ル者ハ來ル
- 第二 某氏ハ來ル人ナリ
- 第三 故ニ某氏ハ來ル可シ

此論ハ宴會ノ席ナトニ於テ能ク使用スルモノニシテ誠ニ確實ナルコトナリ而シテ來ルト云フコトヲニ義ニ用キタリ統語ノ來ルト云フコト、媒語ノ來ルト云フコト、ハ異リ媒語ハ人物ヲ論シ統語ハ會席ニ來ルヲ指シ舉動ヲ云フモノナリ即チ某氏ハ來ル云々ノコト是ナリ此二語ヲ用キテ此論ヲ確實ナラシメタリ

更ニ同語ニテモ其意味ノ異ナル適例ヲ示サンニ

第一 紅葉モミヂハ風雅ノ友ナリ

第二 書生ハ好テ紅葉ヲ食フ

第三 故ニ書生ハ好テ風雅ノ友ヲ食フ

此論ハ不可ナルカ果シテ不可ナリトセハ其ハ何レノ點ソヤ曰ク此論ニハ紅葉ヲ二語ニ用キタリ一ハ木ヲ指シ一ハ通語ニシテ獸肉ノ意味ニ使フ即チ紅葉ト云フ同語ヲ以テ二重ノ意味ニ用キタリ是レ其誤ナ

リ
 又一様ハ相違セルモノ、如クニシテ實際相違セサル場合ヲ解カニ
 其第一ニ馬鹿ニ附ケル藥ハナシ
 第二ニ兎ハ馬鹿ノ獸ナリ
 第三ニ故ニ兎ハ箸ニモ棒ニモカ、ラス
 此ハ(一)馬鹿ト(二)附ケル藥ナシト(三)兎ト(四)箸ニモ棒ニモカ、ラストノ
 四アリ然レトモ此論ノ正當ナル敢テ疑ヲ容レズ是レ附ケル藥ナシト
 箸ニモ棒ニモカ、ラスト云フハ同意味ナルヲ以テナリ即チ論式ニ事
 柄六ツアルトテモ三ツト爲ルトキハ其ハ正シキモノトナル必ス命題
 ノ精神ヲ見テ言辭ニ拘泥ス可カラサルナリ此規則ヲ犯セルモノヲ四
 語ノ誤ト云フ
 第二條大凡論式ニハ三命題アル可ク又三命題ニ限ル可シ

是ハ說明ヲ要セスシテ解セラル可シ何トナレハ凡論式ハ三命題ヨリ
 多クテモ少ナクテモ不可ナレハナリ
 第三條 大凡媒語ハ少クトモ一度周布セラル可シ而シテ其意
 義ハ曖昧タル可カラス

例へハ東京人ハ日本人ナリ

第二 某氏ハ日本人ナリ

第三 故ニ某氏ハ東京人ナリ

之ヲ云フコトヲ得ルヤ否ヤ固ヨリ其不可ナルコト明ナル可シ蓋シ媒
 語ハ不周布ナレハナリ即チ日本人ハ兩ラ賓位ニ來リ居ルヲ以テナリ
 之ト同シクゼボン氏等ノ常ニ出サル、例ニ

第一 吝嗇家ハ金錢ヲ惜ム

第二 某氏ハ金錢ヲ惜ム

第三 故ニ某氏ハ吝嗇家ナリ

是モ前ト同様金錢ヲ惜ムト云フ媒語ハ不周布ナリ實際ヨリ見ルモ金錢ヲ惜ム者ハ悉ク吝嗇家ト謂フヘカラサルナリ同シ例ニテモ前ノモノハ有形ニ屬スルヲ以テ解シ易ケレトモ後ハ無形ニ屬スルヲ以テ少シ解シ難キ所アリ

斯ノ如キヲ媒語不周布ノ誤ト云フ

第四條 大凡語ハ提案ニ於テ周布セラル、ニ非サレハ又斷案

ニ於テモ周布セラル、ヲ得ス

此意味ハ凡テ論式ハ三命題ヨリ成リ初メノ二ツヲ提案ト云ヒ而シテ其ニテ周布セサルトキハ斷案ニ於テモ亦周布セサルモノトス然レトモ提案ニ於テ周布スルモノヲ斷案ニ於テ周布セサルハ固ヨリ隨意ナ

ナリ但シ提案ニ於テ周布セサルモノヲ斷案ニ於テ周布スルコトハ到底出來得ヘカラサルコトナリトス今之ヲ式ニ由リテ解スレハ

第一 凡テノ甲ハ丙ナリ

第二 何等ノ乙モ丙ニ非ス

第三 故ニ何等ノ乙モ甲ニアラス

此場合ニ於テ乙ハ周布セリ論者ニ於テ之ヲ隨意ニ云ヘハ左ノ如シ

ハ二三ノ乙ハ甲ニ非ス

斷案ニ於テ不周布ナルニ提案ニ於テ周布ナルモ別ニ差支ナク即チ此時乙ハ結構ニ言ヒ通セルヲ以テ乙全体ニ於テ之ヲ退クルコトヲ得故ニ又其一部分ヲ退クルコトヲ得ルヤ勿論ナリトス但論スル者ニ於テ此一部分ヲ用ヰルコトハ大ニ損スルモノナルヲ以テ餘リ用ヰル者ナシ

規則第四條ノ例ヲ示セハ

其第一賢人ハ少シ

第二少キ者ハ怪物ナリ

第三故ニ怪物ハ賢人ナリ

此論ノ論理ニ合ハサルハ言ヲ竣タサルコトナレトモ其不可トスル所

ハ那邊ニ在ルカト云フニ此少キ者ト云フハ媒語ナリ第一命題ハ不周

義ナレトモ又直ク折り返シテ言フ故(ア)ノ命題トナル而シテ怪物ト

云フハ副案ニ於テ不周布ナルニ斷案ニ於テ周布セリ是レ其不可ナル

所以ナリ

之下同例ニシテ

第一官吏ハ賢明ナリ

第二某氏ハ官吏ニ非ス

論理学/坪井九馬三(講義)；畔上啓策(編輯)

(英吉利法律講義録 (1886(明治19)年度 第1年級))

77ページから94ページの講義録(20号)は非所蔵

Irregular Syllolisms

變體論式

年以來ノコトニシテ敢テ舊キモノニアラサルナリ然レトモ此論式タル全ク不用ナルモノニハアラス左ニ其適例ヲ示サンニ

第一 藤樹先生は江州の人なり

第二 江州人は諺に泥棒なりと稱す

第三 故に世に泥棒なりと稱せらるゝ者の中にも藤樹先生あり

故ニ此論式ハ人ヲ遣リ込メルニハ隨分役ニ立ツコトアリ他ノ場合モ推シテ知ラル可シ

第三章 變體論式

上來述ヘタル所ハ議論ノ正式ノコトニシテ例ヘハ哲學、法律、高等數學ノ議論ノ如キ皆此式ニ由ラサルヲ得ス然レトモ左マテ高尙ナラサル新聞紙、書簡、談話ノ議論ノ如キモノニハ此論式ヲ使用ス可カラス何トナレハ正式ノ議論ハ自然ニ難澁ナルヲ免カレサレハ新聞紙、書簡、談話

ノ議論ノ如キ通俗ナルヲ必要トスルモノニハ適當セサルナリ唯法律
 哲學等ノ嚴格ニ論定セサル可カラサルモノニノミ正式ヲ使用スルコ
 ト、知ル可シ通常平易ノコトニ此ノ如キ論式ヲ用キルトキハ却テ失
 禮ニ當リ且議論ノ好趣ヲ傷ルモノトス是ニ於テカ始メテ變體ノ論式
 ナ要ス變體ノ論式ニハ種々アレトモ就中其最モ肝要ナルモノヲ茲ニ
 講述ス可シ

通常論式ハ三命題ヨリ成立ス此中一ヲ畧スルモノ之レヲ散體論式ト
 云フ即チ第一ヲ畧スルモノヲ第一種トシ第二ヲ畧スルモノヲ第二種
 トシ第三ヲ畧スルモノヲ第三種ト爲ス又論式ノ三命題ノ中其二箇ヲ
 省畧スルモノアリ余ハ之レヲ畧體論式トハ稱セリ

又議論ニシテ二命題若クハ四命題ヨリ成立ツ如ク見ユルモノアリ又
 三命題ヨリ成立ツモ論式規則ニ協ハサル如ク見ユルモノアリ然レト

散体

モ其論式タル悉ク正シキモノニシテ實ハ論式規則ニ合ハサル如ク見
 ユルノミナリ余ハ之レヲ名ケテ異体論式ト云フ
 又歐文ニハ例少ナケレトモ和漢文ニ多ク見ル所ノモノニシテ現ニ論
 式規則ニハ合ハサレトモ其論ノ正シキモノアリ斯ノ如キ論ノ正不正
 ハ圖法ヲ以テ見レハ明ニ判ルナリ余ハ之レヲ失体論式ト稱ス
 又組立論式ナルモノアリ和漢歐文俱ニ此体アリ余ハ之レヲ鏈体論式
 ト云フ

以上皆變体論式ナリ元來歐文ノ書ニハ其英佛獨ヲ問ハス變体論式ヲ
 詳論シタルモノヲ見サルナリ今先ツ散体論式ヨリ畧論セン

第一項 散體

第一 散体トハ正式ノ三命題アル其中ノ一ヲ省クモノニシテ提綱ヲ
 畧スルモノヲ其第一種トナス

此式ハ其原則明瞭ニシテ然カ知ラサルコトナキ如キ場合ニ用キルナ
 リ例セハ「余ハ足疲レタリ餘リ歩行セルニ由ル」ト云フカ如キ是ナリ之
 レヲ正式ト爲サハ

第一 多クノ道ヲ行クトキハ疲ル

第二 余ハ多ク道ヲ行キタリ

第三 故ニ余ハ疲レタリ

トナル可シ

第二 中段即チ副案ヲ省クヲ第二種トス之レヲ用キル場合ハ例ハ人
 人エ向テ話ヲ爲スニ其事柄ヲ直接ニ言フトキハ實ニ氣ノ毒ノ至リナ
 ルヲ以テ通常之レニ適合スル原則ノミヲ述ヘテ其云ハント欲スル所
 ナ冥々ノ中ニ知ラシムル如キ是ナリ此等ノ論式ハ談話或ハ演說等ニ
 多ク用キルモノナリ例ヘハ余ハ人ニ向テ曰ハンニ「深川ハ住ムニ快カ

ラス、余思フニ水ノ惡シキ所ハ全体健康ヲ害スルモノナリ」ト云フカ如キ然リ之レヲ正式ニセハ

(一) 飲水ノ惡シキ土地ハ住ミ惡クシ

(二) 深川ハ水惡シキ處ナリ

(三) 故ニ深川ハ住ミ惡クシ

此畧式ヲ用キルトモ之ヲ聞ク者ハ必ス其何ヲ云ヒタルカヲ知ルヘシ而シテ述様ニテ深川ニ住ム人ノ心ヲ直接ニ傷ケサルヲ以テ禮儀ヲ破ラサルモノトス

第三 斷案ヲ省ク散体式ハ如何ナル場合ニ用キルカト云フニ此レハ演說又ハ新聞ノ雜報或ハ論說ナトニ多シ而シテ法律文ニハ堪ヘテ見サル所ナリ即チ諷諫、讒謗、誹謗ノ如キハ此式ヲ用キルヲ可トス簡單ナル此例ヲ舉グルハ甚タ難シ彼新聞紙ナドニテ見ルコトニテ何處トナ

ク餘韻アル如ク見ユルハ多クハ是ナリ此等ノ場合ハ其明カラ様ニ言ハサル所ニ妙味アルモノナリ

第二一頂 略體

此變体ハ二命題ヲ畧シタルモノナリ而シテ其第一種ハ唯提綱ノミ存スル場合ナリ此論式ヲ用キル場合ハ極メテ惡事ヲ云ハントスル時ニシテ實ハ自分モ言フコトヲ快トセス亦聞ク者モ之ヲ厭ヒ世人モ亦之レヲ聞クコトヲ欲セサル場合ニ多シトス

此場合ニ於テハ提綱タモ言ヒ盡サ、ルヲ常トス何故トナレハ此議論ヲ取り出シタル理由ハ勉メテ蔽ハル、丈ケハ之レヲ蔽ヒ言少クシテ以テ人ニ知ラシムルニアルヲ以テナリ例ヘハ巡査ニシテ人民ヲ保護スル職ニアリナカラ非法ニモ人ノ安寧ヲ害シタル場合ニ世人評シテ巡査ハ全体人民ヲ保護スル役ニテハナキカト云フ如キ是レナリ即チ

巡查ハ人民保護ノ役ナレハ人ノ安寧ヲ保護セサル可カラスト云フコトヲ意味シタル譯ナリ之レヲ語ラント欲スル者ハ右ノ畧體ニテ事明白ニ至ルモノナリ

第二種ハ前後ヲ畧スルモノニシテ唯副案ノミ存スル場合ナリ此使用法ハ人ヲ譽メ又ハ意見ヲ加フルトキニ在リ何ニテモ其人ノ爲メニナル場合ニ使フモノトス故ニ差當リ其目前ノ事實ノミヲ云フモノトス例ヘハ總領ノ男子放蕩ヲナス時主人意見シテ汝ハ豪商ノ嫡子ニアラサルカト曰ヒ又武官カ兵卒ヲ嗜メテ汝ハ兵士ニハアラサルカト曰フ如キ是レナリ之レヲ正式ニセハ

(一) 兵士ハ卑怯未鍊ノ舉動アル可カラス

(二) 汝ハ兵士ナリ

(三) 故ニ汝ハ卑怯ナル可カラス

第三種ハ一ト二ヲ畧シ唯斷案ノミ述ヘタルトキニシテ之レヲ用ヰル
 場合ハ多ク俳歌ナドニアリ卽チ斷案ノミ出シ置キ他ヲ考ヘシムル如
 キ勉メテ奇拔ノコトヲ云フ場合ナリ而シテ之レヲ出スニハ工夫ヲ要
 スルモノナリ其角ノ句ニ「此人數舟なればこゝ涼みなかな」トアルハ狹キ
 舟ニ多數ノ人乗り居リテハ却テ熱クトモ涼シキコトハナカランニ皆
 是レ河ノ舟中ニ在ル故ニ涼シト云フ意味ナリ之レヲ正式ニ充ツレハ

(一) 河ハ殊ニ涼シケレハ涼ミニ宜シ

(二) 此人數ニテモ河ナレハコソ涼シケレ

(三) 故ニ此人數舟ナレハコソ涼ミカナ

トナルナリ

第三項 異體

異體ニハ命題二箇スラナクシテ而シテ議論ヲ成スモノアリ斯ノ如キ

ハ二命題ノモノガ一命題ニ爲リ居ルニ相違ナシ依テ先ツ之レヲ二箇ニ碎キ以テ議論ヲ立テサル可カラス

次ニ四命題アルモノアリ而シテ若シ果シテ其議論正シケレハ其中一箇ハ説明トナルモノニシテ不用ニ屬スルモノナリ説明ハ多クトモ差支ナシ是等ハ六ヶ敷コトニハアラサレトモ熟セサレハ其本文ナリヤ將タ説明ナリヤハ辨別シ難キコトアリ

次ニ三命題アリナカラ論式規則ニ合ハサルモノアリ是レハ其論正クシテ其姿善カラサルモノナレハ其姿サヘ改ムレハ從テ正式ニ合フニ至ルヘシ例ヘハ主位アリテ賓位ナキモノアリ此ハ之レヲ補ヘハ則チ可ナリ之レトテモ慣ルレハ容易ク出來得ルモノナリ例ヘハ「巡査ハ人民保護ノ役ナルニ」トアルハ主位ノミナルカ如シ

又提綱ハ簡單ニシテ斷案ニハ操様換ノ議論出テ、錯雜ナルモノアリ

是レハ提綱ヲ其儘ニ置キテ終リニ出ル事柄即チ其變リタコトヲ附ケ加フレハ則チ可ナリ

第四項 失體

失體ハ重ニ比較ノ言ヲ用キル場合ニアリ例ヘハ若カス、及ハス、又何々ヨリ優ル、劣ル、或ハ多シ、少ナシト云フカ如キ是ナリ即チ

(一) 甲ハ乙ヨリ多シ

(二) 乙ハ丙ヨリ多シ

(三) 故ニ甲ハ丙ヨリ多シ

ト是レ論式ニハ合ハス然レトモ其議論ノ確カナルコトハ疑ナキ所ナリ此論ノ媒語ハ乙ナリ而シテ正ニ第四法論式ノ姿ヲ爲ス之レヲ圖スレハ左ノ如シ



此事ニ付テ講ス可キモノ數多アレトモ茲ニ省ク唯一言以テ之レヲ蔽
 ハハ數字ヲ用キル場合ハ多ク此失體論式ニ入ルト知ルヘシ元來多數
 ト云フ言ヲ用キル場合ニテモ失體トナレハ其餘ハ推シテ知ルヘシ
 失體ノ場合ニハ圖ヲ畫キテ其正不正ヲ見サルヘカラス論式規則ハ此
 ニ用キ難キナリ論理ニ是アルハ恰モ法典ノ外ニ特別條例アルカ如シ

第五項 鏈體

組立論式即チ鏈體式ヲ圖ヲ以テ示セハ左ノ如シ

甲一乙
 乙一丙
 丙一丁
 丁一戊
 甲一戊

然レトモ實例ニハ甲ハ戊ナリト云フコト決シテナシ總テノ甲ハ乙ナ
 リ乙ハ丙ナリ云々トアリテ後ニ斷案ヲ附スルコトナシ上ノ圖ハ極メ
 テ簡單ナル組立論式ナリ右ハ第一法論式ニ相當ス故ニ該法論式法規
 ナ適用セハ可ナルモノトス現ニ大學ノ天下ヲ治ント欲スル者ハ先ツ
 其國ヲ治ム其國ヲ治メント欲スル者ハ先ツ其家ヲ齊フ云々ノ議論ノ
 如キ是ナリ蓋シ下句ヲ受ケテ文ヲ起スハ漢文ノ法ナレハ自然ニ鏈體
 トナルナリ上圖ノ式ヲ崩シテ正式トスルニハ第二命題ヲ始メニ置キ
 下圖ノ如クス可シ

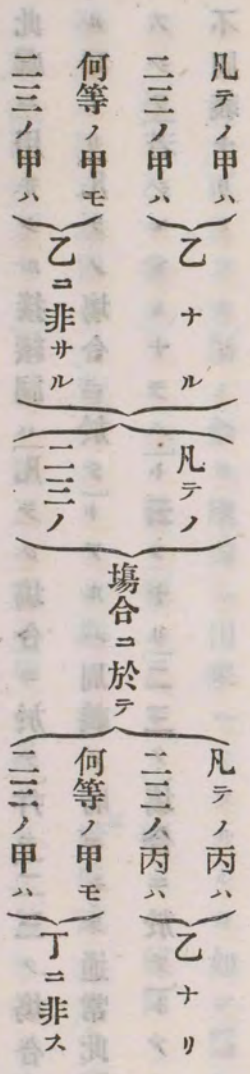
第一圖
 乙一丙
 甲一乙
 甲一丙

第一項 顯限論式

有限論式ハ論式中ニ有限命題アルカ若クハ論式ノ三命題共ニ有限命題ナルモノヲ云フナリ先ツ通常顯限論式ト稱スルモノヨリ講述セシ此所ニ顯限論式ト云フハ論式ノ第一命題ハ顯限命題ニシテ後ノ二ツハ無限命題ナルモノナリ勿論近來ノ論理學者中ニハ之レヲ不可ナリトシ三命題共ニ顯限命題ナルモノヲ顯限論式ト稱シ右ノ如キ類ヲ顯限無限論式ト稱スルモノアリ理論ニ於テハ或ハ然ラン左レト在來ノ慣習ニテ第一命題ノ顯限命題ナルヲ顯限論式ト云ヒ又實際ヨリ考察スルモ斯ノ如キ論式ヲ要シ三命題共ニ顯限ナル如キハ絶テ其用ヲ見サル所ナリ故ニ余モ亦慣例ニ從フ

顯限論式ニハ議論ノ構成ナルト破棄ナルトノ二種アリ此二種ヲ説明セシニハ先ツ顯限命題ノ性質ヨリ説明セサル可ラス顯限命題ハ上下

ノ兩句ヨリ成立ス上句ハ論據トナリ下句ハ論旨ト爲ルモノナリ換言
 スレハ上句ハ從ニシテ下句ハ主ナリ而シテ此兩句ヲ連結スル接續詞
 必スアルナリ凡テ顯限命題ハ其下句ニ依テ其質ヲ變ス故ニ下句ニシ
 テ正定ナレハ命題モ亦正定ナリ下句ニシテ否定ナレハ命題モ亦否定
 タリ即チ顯限命題ニ於テハ下句ノ質ノ如何ナルヲ問ハサルモノトス
 又顯限命題ノ量ハ其接續詞ノ量ニ依ルコト、スレハ接續詞ノ量ニ注
 意セサル可カラス今此定義ニ依レハ顯限命題ハ左ノ式ヲ以テ之レヲ
 示スヲ得ヘシ



此處ニ用ヰタル接續詞ハ凡テノ場合ニ於テ「并ニ」「二三ノ場合ニ於テ」ナル語ナリ凡テノ場合ニ於テ「トアルハ周義ノ時ニシテ通常此語ヲ用ヰスシテ」若シハ、ハ、ナラハ「ト云フナリ」「二三ノ場合ニ於テ」トアルトキハ不周義ナリ

若シ副案ニ於テ上句ヲ受ケテ例ヘハ「凡テノ甲ハ乙ナリ」ト云フトキハ則チ提綱ヲ承諾シタルモノナリ是ヲ以テ斷案ニ於テモ亦提綱ヲ承認シタルモノヲ得ヘシ今簡單ノ例ヲ掲ケンニ

第一 若シ甲ハ乙ナラハ丙ハ丁ナリ

第二 甲ハ乙ナリ

第三 丙ハ丁ナリ

凡テ顯限命題ノ上句ハ無限命題ノ主位ニ相當シ其下句ハ賓位ニ相當ス故ニ此例ニ於ケル副案ハ實ハ「此場合ニ於テ甲ハ乙ナリ」トノ命題ト

ナルト知ラル可シ左レハ「甲ハ乙ナリ」トハ實ハ媒語ナリ故ニ此場合ハ
 第一法論式ノ法則ニ從ヘシモノナリ又若シ第一ニ於テ「丙ハ丁ニ非ス
 トアラハ第三ニ至リテモ亦「丙ハ丁ニ非ス」トナルヘシ是レ提綱ヲ承認
 シタル所以ナリ又若シ甲ハ乙ニ非サレハ「丙ハ丁ニ非ス」トアルモ前同
 様ニ取扱フ可キナリ左ノ如シ

第一 若シ甲ハ乙ニ非レハ丙ハ丁ニ非ス

第二 甲ハ乙ニ非ス

第三 丙ハ丁ニ非ス

トセサル可カラス斯ノ如キ議論ハ出來ヘカラサルカ如シ然レトモ第
 二ノ「甲ハ乙ニ非ス」トアルハ前ノ「甲ハ乙ナリ」ト同シク媒語ナルヲ以テ
 決シテ論式規則ニハ背カサルナリ斯ノ如キヲ構成式トス今若シ第二
 ニ於テ「丙ハ丁ナリ」トセハ第三ニ於テ「甲ハ乙ナリ」ト云ハサルヲ得ス是

レ提綱ヲ破棄シタルモノナリ故ニ第二ニ於テ第一ノ下句ヲ破棄セハ
 斷案ニ於テ必ス上句ヲ破棄スルコト、知ラル可シ今實例ヲ示サンニ
 第一ノ天氣晴レサレハ日ハ暄カナラス
 第二日ハ暄カナリ
 第三天氣晴レタリ
 ト云フコトヲ得ルカ曰ク全ク云フコトヲ得ルニ相違ナシ何トナレハ
 之レヲ尋常論式ニ改ムルニ
 第一天氣晴レサレハ暄カナラス
 第二今日ハ暄カナリ
 第三今日ハ天氣好シ
 ト先ツ置キテ第一ヲ轉換スルトキハ暄カナルトキハ天氣晴レサルハ
 非ストナル可シ之レヲ更ニ反定セハ暄カナルトキハ天氣好シトナル

ヘシ故ニ前例ハ第一法ア、ア、ア式ニシテ正確ナリ斯ノ如キチ破棄式ト
ス斯ク云ハヌシテ假リニ

第一 天氣晴ルレハ日ハ暄カナリ

第二 今日ハ天氣晴レス

第三 今日ハ暄カナラス

ト爲ストキハ其論ノ不適當ナルコト敢テ言フ歟タサルナリ何トナレ
ハ日ノ暄カナラサルコトハ必スシモ天氣ノ晴レサルヲ要セサレハナ
リ之レヲ尋常論式ニ改ムレハ

第一 天氣晴媒語ルレハ暄カナリ

第二 今日ハ天氣晴媒語レス

第三 今日ハ暄カナラス

右ハア、エ、エノ論式ニシテ第一法論式ノ形ヲ成セリ之レヲ第二ニ於テ

「今日ハ天氣晴レタリ」第三ニ於テ「今日ハ暄カナリ」トセハ論式規則ニ合
フモノナリ

之レヲ要スルニ構成式ハ第一法式規則ニ又破棄式ハ第二法式規則ニ
從ハサル可カラス

在來述フル所ハ自作ノ實例ナルカ尋常談話中ニモ文章中ニモ此論式
ニ協フ議論甚タ多シトス今古詩ニテ此式ニ相當スルモノヲ舉クレハ
蘭陵美酒鬱金香玉椀盛來琥珀光但使主人能醉客不知何處是他郷トア
ルカ如キ其例ナリ之レヲ正式ト爲サンニハ先ツ詩ノ意味ヲ正當ニ解
釋セサル可カラス正當ニ解釋セハ左ノ論ヲ得ヘシ

第一 但使主人能醉客不知何處是他郷

第二 蘭陵美酒鬱金香玉椀盛來琥珀光(即主人能醉客)

第三 (故ニ)客不知何處是他郷

駢顯論式

Disjunctive Syllogism.

斯ノ如キハ顯限ノ構成式ナリ又破棄式ノ正文ヲ示サンニ古句ニ功名
富貴若長在漢水亦應西北流トアルハ顯限ノ略体ニシテ唯提綱ノミナ
リ蓋シ漢水ハ西北ニ流ル、河ニ非サルヲ以テ言外ニ功名富貴ノ長ニ
在ラサルヲ喻ヘタルモノナリ今之レヲ正式トナサハ

第一 功名富貴若長在漢水亦應西北流

第二 漢水不西北流

第三 (故ニ)功名富貴不長在

トナルヘシ是レ第二法^ろア、エ、エ式ニシテ確實ナリ

第二項 駢顯論式

駢顯論式ハ顯限ノ如ク駢顯命題ヲ三段ニ並ヘテ出來得ヘキモノニ非
ス其第一命題即チ提綱ハ必ス駢顯命題ニシテ其第二及ヒ第三ハ無限
命題ナルモノナリ駢顯論式ニハ通常第一種ト第二種トアリトスレト

モ實ハ唯一種スラ無キモノニシテ提綱ノ性質ニ由リテ二種ト爲ルニ過キス按スルニ駢顯命題ニハ二種類アリ例へハ

第一 [甲] [乙] ナルカ或ハ [丙] [丁] ナリ

トアル場合ニ於テ甲ハ乙ナルカ然ラサレハ丙ハ丁ナルカナリト云フノ二途ヨリ外ナキモノトナル可シ斯ノ如ク二途ニ限ル如キハ通常ニハ至テ稀ナルコトニテ無益ナルニ近ケレトモ又此種類ノ駢顯ハ全ク無キニモ非サルヲ以テ茲ニ講スルナリ例へハ甲ハ誤リナルカ若クハ丙ハ誤リナルカ甲丙孰レノ中ニカ誤ナルモノアレトモ今甲トモ丙トモ斷言シ能ハサル場合ノ如キハ前ノ式ニ當ルモノナリ然レトモ此ノ如キ場合ハ通常餘リ多カラサルコトニシテ大概ハ雙方誤レルカ又ハ雙方正シキコトナリ前ノ場合ニ於テハ甲ヲ取ル可キモノトセハ丙ヲ取ル可カラサルモノトセサル可カラズ而シテ丙ヲ取ル可キモノトセ

ハ甲ヲ取ル可カラサルモノトセサル可カラス是ヲ以テ

第二 [甲]ハ[乙]ナリ(或ハ丙ハ丁ナリ)

第三 (故ニ[丙]ハ[丁]ニ非ス(或ハ甲ハ乙ニ非ス)

ト之レヲ普通ニ第一種ト稱ス又

第一 [甲]ハ[乙]ナルカ若クハ[丙]ハ[丁]ナリ

トアル場合ニ於テ甲モ乙ナリ丙モ丁ナリト雙方正確ナリト認ムレハ
ヨシヤ特殊ノ場合ニ於テ甲ノ乙タラサルコトアルモ丙ノ丁タルコト
ハ依然トシテ動カサル可シ而シテ甲ノ乙タル場合ニ於テハ勿論丙モ
亦丁タル可シ今假リニ

第二 [甲]ハ[乙]ニ非ス

トシテ破リタルトキト雖モ尙ホ

第三 [丙]ハ[丁]ナリ

ト云フコトヲ得ヘシ斯クノ如キチ^ニ第二種トス故ニ第一種第二種ノ區別ハ全ク提綱ノ性質ノ異ナルニ由ルヲ知ラル可キナリ勿論此場合ニ於テ若シ甲ハ乙タルカ丙ハ丁タルカノ二途ニ限ルコト、セハ議論ハ愚案ニ依レハ第一種トナル可シ唯副案ト斷案トヲ交替シタルノミナレハナリ次ニ適例ヲ擧ケン

第一種ノ場合

信長桶狭間ノ戰爭ニ出ツル時ニ熱田ノ社ニ占ハント欲シ乘馬シテ鳥居ノ前ニ立キ鬪ヲ拔キシニ其社内ニテ甲冑ノ音シタリ信長之レヲ聞キテ此度ノ戰爭ニ勝利ヲ得ルナリトテ喜ヒタリ或人曰ク之レハ宮司ノ鳴シタルモノナラント今之レヲ論式ニ作ルトキハ

第一 熱田の神社にて甲冑の音せしは信長の命にて宮司の之れ

を爲せしう或は熱田の神の靈驗なり

第二 熱田の神社にて甲冑の音せしは信長密に宮司に命せし故なり

第三 (故に)熱田の神社にて甲冑の音せしは熱田の神の靈驗に非す

トナル可シ先ツ此ノ提綱ニ熱田の神社にて甲冑の音せしは[甲]ニシテ
信長之れを爲さしめしは[乙]ナリ又副案ニテ熱田ノ神社ニテ甲冑ノ音
セシハ神の靈驗ニ非ストセハ其音セシヤ信長ノ命ナルコト知ルヘキ
ナリ
第二種ノ場合
第一 學生の能く其業を修むるは喜ぶ可きことなり又其父兄の
能く之れを教訓するも亦喜ぶ可きことなり
第二 某學生は能く其業を修めするも

第三 其父兄の能く之れを教訓するも尙ほ喜ふ可きことなり

此例ニ於テ副案ヲ學生は能く其業を修むトスルモ斷案ハ前同様ニテ何レニテモ推續ナリトス
駢顯論式第一種コテハ副案ヲ正定ニセハ斷案ハ否定トナリ斷案ヲ正定ニセシニハ副案ヲ否定ニセサル可カラス故ニ論式規則ヲ直チニ之レニ適用シ難キナリ然レトモ之レヲ顯限論式ニ直サハ論式規則ニ協フ可シ即チ提綱ヲ甲ニシテ乙ナラハ丙ハ丁ニ非ストカ若シ丙ニシテ丁ニ非サレハ甲ハ乙ナリトカニセハ宜シ第二種ニハ規則ヲ適用ス可キ道ナシ成學ノ諸君ハ雜糅推續法ヲ以テ之レヲ審案セラルヘキナリ此外述フ可キモノ多カレトモ皆困難ナルヲ以テ此ニ畧シ直チニ過誤ノコトニ移リ講セシ

第五章

過誤

*Fallacies.
 ^Logical fallacies or in dictione.
 &Fallacia aequivocationis.

謎誤之過

以上講述セシ所ニテ論法ノ大体ヲ終レリ諸君ハ一通リ之レヲ知ラレ
 シモノトシテ是ヨリ論敵ノ爲メニ侮ラレサル様ニ勉メラレシムニハ最
 モ心得ラル可キ注意アリ蓋シ論理ヲ破ル者ノ説ハ取ルニ足ラサレト
 モ確實ニ立論シ駁説セント欲スル諸君ハ亦以下ノ法則ヲ辨知セラレ
 サル可カラサレハナリ先ツ論理過誤ヨリ始ムヘシ

第一項 謎誤之過

是レハ言辭曖昧ニシテ如何様ニモ其意味ヲ取り得ルコトノ出來ルモ
 ノヲ云フ畢竟四語ノ誤又ハ媒語曖昧ニ歸スルモノナリ例之ハ

第一 四隣ノ安寧ヲ妨クル者ハ法律ヲ以テ罰ス可シ

第二 三絃ヲ學フ女兒ハ四隣ノ安寧ヲ妨ク

第三 (故ニ)三絃ヲ學フ女兒ハ法律ヲ以テ罰ス可シ

ト是レ誤ナルカ其ハ如何ナル故カト云フニ全体此四隣ノ安寧ト云フ

語ハ其意曖昧ニ屬セリ安寧ニモ種々ノ度アレハナリ

又

第一 守仁義者聖賢之徒

第二 盜賊亦有仁義

第三 [故ニ]盜賊亦是聖賢之徒

元來聖賢ト云ハル、人ハ如何ナル場所如何ナル時ニテモ仁義ヲ守ル
モノナリ盜賊ハ只其仁義ヲ有スルト云フノミニシテ未タ以テ常ニ之
レヲ守ル者トハ謂ハレサルナリ是レ守仁義トノ語ノ謎語ナル所以ナ
リ

第二項 謎句之過

古句ニやみの夜は、松原はうり月夜哉ト云フコトアリ一休月無キ夜ニ
松原許リ月夜ト云フハ何ニカ判カラス然レトモ句讀ノ切り様ニテ判

Fallacia compositionis
et divisionis.

聚合及分
釋ノ過

ルノリ即チ「やみの夜は松原はのり」ナリト切リテ「月夜哉」ハ嗟乎月夜ナ
ル哉トノ歎賞ノ句トナサハ適當ナラム又東京俚俗ノ戯言ニ「今日は雨
の降る天氣でない」ト云フカ如キ今日ハ雨降ル故ニ天氣ナラストモ取
レ又雨ノ降ル様ナル天氣ナラストモ取ルコトヲ得皆是レ句ヲ猥リニ
用ヰルヨリ來ル過ナリ英國ハ法律ノ謎句ヲ以テ天下ヲ乱シタルコト
サヘアレハ句ノ用法ハ正サ、ル可カラス

第三項 聚合及分釋之過

聚合トハ始メニタ通りニ解釋シテ一ツト見做スモノナリ古例ニ

第一 二ト三ハ二箇ノ數ナリ

第二 二ト三ハ五ナリ

第三 「故ニ」五ハ二箇ノ數ナリ

是レハ式ノ如キモノナルカ此ノ過ノ實例ハ隨分アルコトナリ例ヘハ

第一 龍ノ口の勸工場は近傍の商人に於て其物品を賣らしむる

爲めに大なる利益を與へたり

第二 勸工場に物品を出すは東京の商人なり

第三 (故ニ)東京の商人は龍ノ口の勸工場を開く爲めに大利を得

たり

ト是レ不適當ナルコトナリ該勸工場内ノ商人ハ東京全府ノ商人ニア
ラス唯僅ニ其一部ノ人ノミ該勸工場ヲ開キタル爲メニ随分中ニハ損
耗スル商人モアル可シ是レ聚合ノ過ナリ分釋ノ過ハ之レニ反シ

第一 五ハ一箇ノ數ナリ

第二 三ト二トハ五ナリ

第三 (故ニ)三ト二トハ一箇ノ數ナリ

例之ハ

Fallacia accentus.

音節之誤

語類之過

第一 東京府民は男女老幼より成る

第二 東京府會議員は東京府民なり

第三 [故ニ]東京府會議員は男女老幼より成る

ト云フカ如シ誤レリ

第四項 音節

語ニハ妄リニ念ヲ入ル可カラズ入ルレハ大ナル誤リヲ來ス可シ例ヘ
 ハ[貴君は今日上野へ參るのと]平易ニ云ヘハ判ルコトヲ若シ高調ニテ
 [貴君は]チ重ク云フトキハ他人ノ行クヤ否ヤチ斥ケタル様ニ受取ラル
 又若シ[今日]チ重ク云フトキハ他日ハ參ラサルカト聞ク様ニナリ[上野]
 チ重クスルトキハ他處ニ行カサル様ニ思ハル是ヲ以テベンザム氏モ
 曰ハレシ如ク音節ハ平坦ナルチ尙フ可シ

第五項 語類

Material fallacies
or Extra dictionem.

實事過誤

Fallacia figurae dictionis.

語類ノ過トハ名詞ニ非サル辭ヲ名詞ニ用井又動詞ニテナキモノヲ動
詞ニ使フ如キコト是ナリアリストテリース氏ノ例ニ

第一 人の歩行する所は人の踏む所なり

第二 人は終日歩行す

第三 (故ニ)人は終日を踏む

ト云フカ如シ實ニ不適當ノコトナリト謂フ可シ但シ斯ノ如キ過ハ稀
ナラント信スルナリ

第六章 事實過誤

過語ニ二種アリ一ハ論理ノ過誤二ハ事實ノ過誤是ナリ論理ノ過誤ハ
前章ニ於テ之レヲ述ヘタリ事實ノ過誤ハ其實地ノ適例ヲ舉グルコト
最モ困難ナルモノナリ蓋シ此過誤ハ片言隻句ノ間ニ於テ見受クルコ
ト殊ニ稀ニシテ大ナル議論中ニ冥々ニ在テ存スルコト極メテ多ケレ

Fallacia a dicto simpliciter
ad dictum secundum quid.

偶有ノ過

ハナリ諺ニモ掌ヨリ水ノ漏ルト云フコトアリ大議論ヲ爲ス諸君ハ注
意セラル可キコトナリ

第一項 偶有ノ過

ルテ如何ナル原則ニテモ在ラシ限リノ場合ニ悉ク適用セラレ得ンハ
六ヶ敷コトニシテ概シテ其例外ナルコトアルモノナリ此例外アル所
ノ原則ヲ宛モ例外ナキ様ニ云フハ即チ偶有之過ナリ例へハ

第一 人ノ身体ニ刃ヲ刺ス者ハ法律ニ由リテ處置ス可シ

ト云フ原則アリ此原則ニ例外アルコトヲ知ラスシテ

第二 外科醫者ハ人身ニ刃ヲ刺ス

第三 (故ニ)外科醫者ハ法律ニ由リテ處置ス可シ

ト云フニ至ル醫師ハ何故ニ人身ニ刃セシカ又法律ハ何故ニ人身ニ刃
セシモノヲ罰スルカ其理ヲ究メサル可カラズ醫師ノ人ニ刃セシハ治

偶有轉換 ¹²Fallacia a dicto secundum
quid ad dictum simpliciter.
¹²Reasoning from particulars
to particulars.

療チナス爲メ又法律ノ人ニ刃セシモノヲ罰スルハ其所爲チ惡ミテナ
リ是ヲ以テ法律ハ惡意アリテ人ニ刃セシモノニアラサレハ罰セス斯
ノ如ク例外アルコトヲ知ラスシテ論スル場合チ偶有ノ過ト云フ
此偶有ノ過ナルモノハ原則チ事實ニ適用シ損ヒタル者ナルヲ以テ此
過チ摘發センニハ先ツ原則ノ精神ヲ研究シ次ニ事實ノ如何チ調査セ
サル可カラス判決ノ爲メ損ヒナヅセハ此ノ過ノ多クアルコトヲ知ラ
ル可キナリ

第二項 偶有轉換

偶有轉過ハ偶有ノ過ノ顛倒セシモノナリ即チ縷々ト取除ノ場合チ述
ヘ立テ故ニ然リト全体ニ論及スルモノナリ是レハ誹謗ノ如キ宜シカ
ラサル場合ニ多ク用ヰルモノナリ
又特殊ノ場合ヨリ特殊ノ場合ニ論及スルモノアリ例ヘハ彼ノ大閤記

不法斷案ノ過

ノ狂言ニモアル如ク

第一 成湯周武ハ臣下ノ分トシテ其君ヲ放チ若クハ弑シテ尙ホ

聖人ト崇メラル

第二 惟任光秀モ亦臣下ノ分トシテ其君ヲ弑セリ

第三 (故ニ)惟任光秀モ亦聖人ト崇メラル可シ

ト云フカ如キ類是ナリ此類ノ過ハアリストテリース氏ノ類別ニハ見ヘサレトモ缺ク可カラサルノ補遺ナリトス

第三項 不法斷案ノ過

不法斷案ノ過ヲ講述スル前ニ一言ス可キハ道德ノ主義ト論理トヲ區別スルコト是ナリ例ヘハ白痴癡癲者ノ云フ所ニテモ其言正シケレハ之レヲ採リ又賢人トカ或ハ高位高官ノ人ノ云フ所ニテモ其言正シカラサレハ之レヲ用非サルハ正當ノコトナリ孔子モ時アリテハ狂者ノ

言ヲ採レリ故ニ其言ヲ採リテ其人ヲ採ラサレハ則チ可ナリトス然ル
 ニ兎角世人ハ人ニ由リテ議論ヲ取捨ス是レ人物ニ由リテ眞理ヲ取捨
 スルモノト謂フ可シ
 凡ソ己レノ欲スル所ヲ以テ人ニ施スハ是レ道德ノ教ナリ故ニ己レノ
 出來サルコトヲ以テ人ヲ責ムルハ過ナリ然レトモ論理ニ於テハ斯ノ
 如キモ亦確論ナリ余ノ本日講スル所モ余ニ於テ悉ク之ヲ實施シ得ル
 ト云フニ非ス唯論理ノ教ナレハ申スナリ
 却說不法斷案ノ過トハ無理無体ニテモ人ヲ毀損セントスル惡手段ヲ
 云フナリ

第一 甲論者アリ乙論者ヲ毀損セントス而シテ甲ハ見識高キ名家ニ
 シテ乙ハ凡庸ノ俗人ト假定ス可シ此場合ニ於テハ甲ノ說ハ兎テモ乙
 ノ肚裏ニ入ル氣遣ナシ故ニ相互ニ其情ヲ知ラサル可シトサレハ乙ニ

於テハ甲ノ説ハ判ラストモ思ハス甲説ヲ誤解シテ駁撃ヲ試ムヘシ之ヲ第一種トス

第二 甲乙互ニ其情ヲ明ニ知リ合ヒ甲ノ云フ所ハ乙能ク之レヲ知ルト雖モ甲説ニ服従スルヲ快トセス強テ字面又ハ文章或ハ其適例ヲ攻撃ス俗ニ所謂人ノ上ケ足ヲ取ルモノ是レナリ之ヲ第二種トス

因曰 議論ヲ爲スニ當リ本旨ヲ擱キ唯其支葉ニ移リテ喋々スルモ亦此中ニ入ル可シ何トナレハ本ヲ攻撃スルコト能ハサル故ニ末ニ喋々スレハナリ

第三 議論ノ確實適當ナルハ暫ク措キ文章モ亦他人ニ指撃セラレ廉ナキ人ヲ攻撃センニハ其人物ヲ攻撃スルヨリ外ニ手段ナシ是レ議場ニ於テ多ク其例ヲ見ル所ナリ即チ其攻撃ノ方法ニ究シ容貌、體度、品行ハ云フニ及ハス遂ニハ一家内ノ密事ヲモ漏スニ至ル斯ノ如キハ正

當ニ議論ヲ爲スコト能ハスシテ唯人ヲ嘲弄スルモノナリ之ヲ第三種
 トス
 第四又議論文章ハ勿論平常ノ品行ト云ヒ風采ト云ヒ一点ノ非ヲ容
 ル、コト能ハサル人ニ對シテ攻撃ヲ爲サントスルニハ無智ノ輩ヲ集
 メテ得意ニ其人ヲ撃ツモノナリ五六年前マデハ政談演說會ナドニ於
 テ隨分多ク此類ノ人ヲ見受ケタル様ニ覺ユ是レ無學文盲ノ細民ヲ煽
 動シテ論敵ヲ挫折セントスルモノナリ之ヲ第四種トス
 以上列記セシ四種ハ何レモ御耻ガシキコトニシテ第一ハ無學ヲ公ケ
 ニ知ラスルモノナリ第二ハ度量ノ狭キヲ人ニ知ラシメ第三ハ小人タ
 ルノ謗リヲ免レサルモノニシテ第四ハ愚人タルコトヲ人ニ示スニ外
 ナラス故ニ論法ヲ學フ者ハ熟慮シ勉メテ不法斷案ノ過チ避ケサル可
 カラズ

不應推續
ノ過

Non sequitur or
Fallacia non consequentis

伏藏斷案
ノ過

Petitio prinpiici.

第四項

不應推續ノ過

凡ソ事ヲ論斷スルニハ證據充分ナラサル可カラス否ラサルモノチ不
應推續ノ過ト云フ此過ヲ爲ス者比々皆然リ元來何事ニテモ多數ノ者
是トセハ之レチ是トシ非トセハ之レチ非トセサル可カラス政府ヲ評
スルモ亦然リ邂逅批難ス可キコトアルモ大部分ニ於テ採ル可キコト
アレハ其政府ハ良政府ナリト謂ハサル可カラス然ルニ其政府ニ於テ
些少ノ失策アルモ之ヲ指摘シテ善事ハ是レ偶然ノ出來事ノ如ク云ヒ
做スハ畢竟其政府ヲ誹謗シタルモノナリ

第五項

伏藏斷案ノ過

伏藏斷案ノ過ノ委シキコトハ之レチ省カン凡テ論斷ハ證明ニ依ル即
チ豫メ原則ヲ掲ケ之ニ依テ論斷スルコトナリ然ルニ其道ニ出テス證
據擧ラサルチ擧リタル様ニ見セ掛ケテ爲スコトアリ例ヘハ日本刑法

ニ明文ナクシテ實際刑罰ヲ加フルコト能ハサル被告人アラシニ社會
ノ安寧上之レヲ罰セサル可カラサル場合ニ於テ先ツ政府ハ其犯罪ニ
適用シ得ル丈ケノ箇條ヲ附ケ加ヘテ該被告人ヲ罰スト假定セヨ是レ
法律ヲ既往ニ遡ラシメタルモノナリ斯ノ如キハ原則ハナケレトモ勢
ヒ罰セサルヲ得サル故罰シタルモノニシテ犯罪ノ證據ナクシテ罰セ
ラレタルナリ即チ伏藏斷案ナリ又有名ノ哲學者デカート氏ノ自ラ信
シテ用井タル原則ニ

自ラ信シテ疑フコト能ハサルモノハ實際ニ於テモ亦確實ナリ
ト之レヲ事實ニ照スモ猿蟹合戦ノコトハ小兒固ヨリ之レヲ信ス又此
世ニ幽靈ナルモノ、ナキコトハ人ノ知ル所ナリ然レトモ小兒ハ古老
ノ言ヲ飽迄モ信シテ疑ハス然レハ是レハ實際ニ於テアルモノカト問
フハ氏ノ言ニ從ヘハ在リト答ヘサル可カラス氏ノ原則ノ不當ナル以

テ知ル可キナリ氏ノ斯ノ如キ原則ヲ考ヘ出シタルモ畢竟宗教上ヨリ
出來タルモノナリ今夫上帝ノ存在ハ證明モ出來ス又其不存在ナルコ
トモ證明シ得ラレサルナリ然ルニ氏ハ上帝ノ存在ハ人間ニ於テ何程
考フルトモ疑フコト能ハサルコトナレハ上帝ハ勿論存在スルナリト
云ハレタリ是レ又伏藏斷案ナリ
ベンザム氏ニ由レハ不明ノ言ヲ以テ人ヲ攻撃スルモ亦伏藏斷案ナリ
ト例ヘハ憲法ニ違背スル旨ニテ論者ヲ攻撃ス然ルニ其憲法トハ如何
ナルモノカ又其第何條ニ由リテ不可ナルカ證明スルコト能ハサルト
キハ是レ證據ナクシテ論斷スルナリ又平常ノコトナルカ余ノ牛肉ヲ
食スルトキ友人來リテ牛肉ヲ何ノ爲メニ食スルカト云ヘハ先ツ滋養
物ナルカ故ナリト答フ其滋養物トハ何ソヤ學理上之レヲ證明スルハ
難キコトナリ又此燈ハ大ニ光ルト云ヘハ電氣燈ヲ點セシカ故ナリト

Non causa pro causa.

原因相違ノ過

Fallacia pluriam interrogatioum.

多問ノ過

答フ是レ毫モ答辨ニ非ルナリ問フ者ハ何故ニ此燈ハ多分ノ光ヲ發スルカト聞キタルニ唯電氣燈ヲ點シタルカ故ナリト云フハ燈名ヲ述ヘタルニ過キス電氣燈ナレハ何故ニ此光ヲ發スルヤ其理ヲ説明セサル可カラス右等ノ答ヲ説明ト心得ル杯ノ過チハ本項中ニ入レテ不可ナキナリ

第六項 原因相違ノ過

原因ノ相違トハ歸納法ノ遣リ損ヒナリ譬ヘハ鳥啼カ惡キ故何カ凶事アル可シ又彗星カ現ハレタルヲ以テ天變アリ昨夜ハ夢見ガ好カラサルヲ以テ今日ハ損耗ヲ爲スト云フカ如キ類ナリ

第七項 多問ノ過

凡議論スル時ニハ論點ヲ細別シテ之ヲ條款ニ分チ明瞭ニ議論ス可シ然ルニ多クノ論點ヲ無茶ニ混雜ヒシメ一處ニシテ議論スル如キハ必

定過ヲ犯ス道ナリ故ニ固ヨリ其當ヲ得タルモノニアラス古例ニモアル如ク判事ノ被告人ヲ審問スルトキ曰ク其方ハ盜賊ヲ働クコトヲ廢セシ乎ト斯ノ如キ問ニ對シテハ被告ハ之レニ答フルニ道ナキナリ蓋シ此問タル二條ニ區別スルコトヲ得其一ハ被告人ハ嘗テ惡事ヲ働キシコトアルカトノコトニシテ其二ハ若シ嘗テ惡事ヲ働キシコトアラハ現今マテモ尙ホ之レヲ爲スカトノコトナリ然ルニ此問ニテハ被告人若シ現在ハ止メタリト答フレハ元ト爲シタルコト、爲ル可シ故ニ被告ハ須ラク之レヲ二ツニ分析シテ答ヘサル可カラス判官モ亦尋問ヲ爲スニ當リテハ宜シク之レヲ數多ノ命題ニ細分シテ然ル後チ問ハサル可カラス

一體法律ヲ學ハル、諸君ハ能ク人ノ言フ所チ箇條ナトニ分テテ議論セラル、カ故ニ直チニ其是非ヲ決スルヲ得レトモ法律學ナトチ御承

知ナキ人ハ往々無暗ニ論ヲ混同シテ討論セラル、ヲ以テ何時モ纏ラ
サルナリ此等ノコトハ能ク御承知ノコトナラシムナレトモ因ニ申スナ
リ

猶論ス可キモノ夥多アレトモ之レヲ省キ續釋法ノ講義ヲ此ニ終フ

續釋法終

論理學目次

續釋法

第一編 總論

第一章 論理學原義

第二章 論理學大別

第一項 續釋論理

第二項 歸納論理

第三項 續釋法歸納法相關

第三章 論理主用

第二編 命題

第一章 命題類別

第一項 句類總論

一丁

六丁

六丁

七丁

九丁

十二丁

十四丁

十四丁

第二項 命題ノ類別

十八丁

第二章 命題辯義

二十五丁

第一項 語辭辯義

二十五丁

第二項 正定周義命題

二十七丁

第三項 否定周義命題

三十一丁

第四項 正定不周義命題

三十二丁

第五項 否定不周義命題

三十三丁

第六項 顯限命題

三十五丁

第七項 駢題命題

三十七丁

第三章 命題相關

四十丁

第四章 主賓位周布

四十四丁

第一項 周布釋義

四十四丁

第二項 正定周義命題

四十六丁

第三項 否定周義命題

四十七丁

第四項 正定不周義命題

四十九丁

第五項 否定不周義命題

五十丁

第五章 命題轉換

五十一丁

第一項 尋常轉換法

五十一丁

第二項 直轉法

五十五丁

第三項 加限轉換法

五十五丁

第四項 乖戾轉換法

五十七丁

第六章 命題推演

五十九丁

第一項 推演原義

五十九丁

第二項 反定推演法

五十九丁

第三項 事實反定推續法

五十九丁

第四項 乖戾推續法

六十丁

第五項 係辭推續

六十二丁

第三編 論式

六十四丁

第一章 論式說明

六十四丁

論式規則ヲ論ス

六十九丁

第二章 論式制定

八十二丁

第一項 豫定式

八十二丁

第二項 確定式

八十四丁

第三章 變體論式

九十五丁

第一項 散體

九十七丁

第二項 畧體

百丁

第三項 異體

百二丁

第四項 失體

百四丁

第五項 鏈體

百五丁

第四章 有限論式

第一項 顯限論式

百八丁

第二項 駢顯論式

百十五丁

第五章 過誤

第一項 謎誤之過

百二十一丁

第二項 謎句之過

百二十二丁

第三項 聚合及分釋之過

百二十三丁

第四項 音節之過

百二十五丁

第五項 語類之過

百二十五丁

第六章 事實過誤

第一項 偶有之過

百二十六丁

第二項 偶有轉換

百二十七丁

第三項 不法斷案之過

百二十八丁

第四項 不應推續之過

百二十九丁

第五項 伏藏斷案之過

百三十三丁

第六項 原因相違之過

百三十三丁

第七項 多問之過

百三十六丁

續釋法目次終

六

八

法學通論

英吉利法ニテハ賣買ハ則チ引渡ニシテ賣買ノ豫約ハ契約ナリトス佛